

# 第2次 安曇野市スポーツ推進計画



平成 30(2018)年 3 月  
安曇野市



## はじめに

本市では、平成 23 年 8 月に「安曇野市スポーツ振興計画」を策定し、市民一人ひとりが年齢、性別、体力や運動能力、目的に合わせて、スポーツにかかわることができる環境を整えてまいりました。その結果、成人のスポーツ実施率向上など、取り組みの成果があった面もありますが、若い世代に運動習慣が定着していないことや高齢世代での運動離れの傾向が見られるなど、新たな課題も顕在化しています。

一方で、国（文部科学省）においては、平成 22 年 8 月に「スポーツ立国戦略」を策定し、スポーツを国家戦略とする考えを示しました。その後、昭和 36 年制定の「スポーツ振興法」を全部改正し、スポーツ立国の実現を目指し、平成 23 年 8 月に「スポーツ基本法」を制定しました。こうした中、2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催の決定や、2027 長野国体の開催が内々定になるなど、スポーツへの関心は一層高まるばかりです。

そのような状況の中、本市では「安曇野市スポーツ振興計画」の計画年度終了に伴い、スポーツ推進の方向性を明確にして、総合的かつ計画的に取り組んでいくため、「第 2 次安曇野市スポーツ推進計画」を策定いたしました。

本計画では、スポーツを「する」ことから生まれる「楽しさ」「喜び」を大事にし、みんなの笑顔や元気を生み出し、健康な暮らしを送りながら、スポーツを通じた様々な交流を促進し、そこで育まれる活力をさらに大きくすることが重要と考え、将来像に「笑顔あふれ活力みなぎる 健康スポーツ都市 安曇野」を掲げました。

今後は、将来像の実現に向けて、3つの柱（基本目標）を中心に、さまざまな事業を積極的に展開してまいりますので、市民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本計画の策定にあたりご尽力いただきました「第 2 次安曇野市スポーツ推進計画策定委員会」の委員の皆様をはじめ、アンケートやパブリック・コメントにご協力いただきました市民の皆さま並びに関係各位に対しまして、心から感謝申し上げます。

平成 30(2018)年 3 月

安曇野市長 宮澤 宗弘



# 目 次

<b>第1章 計画に関する基本事項</b> .....	1
1. 計画策定の意義・目的 .....	1
2. 計画の性格と位置付け .....	2
3. 計画の期間 .....	2
4. 上位計画の概要 .....	2
5. スポーツのとらえ方 .....	4
<b>第2章 市民のスポーツとの関わりの現状</b> .....	5
1. 市民のスポーツ実施率～世代・性別での相違～ .....	5
2. スポーツの実施機会提供と施設利活用の状況 .....	9
3. 小中学生の体力の変化 .....	10
4. 「する」スポーツを支える体制 .....	11
5. 年齢の積み重ねと運動不足により生まれるリスクへの対応 .....	12
6. 市民の望むスポーツ推進策（平成21年度と平成28年度調査の比較から） .....	14
<b>第3章 計画の目指すところ・目標</b> .....	15
1. 将来像 .....	15
2. 基本目標 .....	16
<b>第4章 実現のための施策</b> .....	17
<b>基本目標1 市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進</b> .....	18
基本施策① 子どものスポーツの推進 .....	18
基本施策② 「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進 .....	20
基本施策③ ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり .....	21
基本施策④ 効果的なスポーツ情報サービス .....	22
基本施策⑤ 公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善 .....	23
<b>基本目標2 「する」スポーツを支える体制・しくみの充実</b> .....	24
基本施策⑥ 地域で支えるスポーツ推進体制の基盤づくり .....	24
基本施策⑦ 健康増進に関わる多様な主体の連携強化 .....	26
基本施策⑧ 総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化 .....	28

<b>基本目標 3</b>	<b>安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出</b>	29
基本施策⑨	障がい者スポーツを広める場と体制づくり	29
基本施策⑩	豊かな環境を活かしたスポーツ交流	30
基本施策⑪	「する」「見る」スポーツを通じた多様な交流の拡大	31
基本施策⑫	東京五輪・長野国体準備を通じた各種交流	32
<b>第5章</b>	<b>計画の推進及び進捗管理</b>	33
1.	計画の推進	33
2.	数値目標による管理	33
3.	計画の進捗管理	33

# 第1章

## 計画に関する基本事項

### 1. 計画策定の意義・目的

安曇野市では、平成23年3月に市民が自主的・主体的にスポーツ活動を展開するためのしくみを構築し、市民のライフステージに合わせてスポーツができる環境づくりを行う計画として「安曇野市スポーツ振興計画」を策定し、必要な施策を進めてきています。

この間、国内に目を向けると、平成23年6月にスポーツ基本法が制定され、平成25年度には2020年東京五輪の開催決定、平成27年度にはスポーツ庁設置、平成28年度には第2期スポーツ基本計画の策定と、スポーツをめぐる環境が変化してきました。この過程でスポーツは、次代を担う青少年の体力の向上のほか、様々な交流の促進、地域の一体感や活力の醸成、心身の健康の保持増進など、より多面的な役割の重要性が認識されてきています。

このような動向や考え方にに基づき、安曇野市のスポーツをめぐる様々な状況や市民意識、将来の動向等を勘案し、市のスポーツに関する概ね10年先を見据えた施策を取りまとめることを目的としたものが「第2次安曇野市スポーツ推進計画」（以下「本計画」という。）です。

なお、安曇野市スポーツ振興計画は、本計画の第1次計画とみなし、「第1次推進計画」とします。

#### 計画の法的位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条の地方スポーツ推進計画に相当します。第9条に基づいて定める国のスポーツ基本計画を参酌して定めるものとされています。

同条の条文には『地方公共団体（以下「特定地方公共団体」という。）にあつては、その長は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画（以下「地方スポーツ推進計画」という。）を定めるよう努めるものとする』と示されており、本計画はこれに基づいて定める計画です。

長野県では、平成29年度に長野県スポーツ推進計画の第2次計画を策定しています。

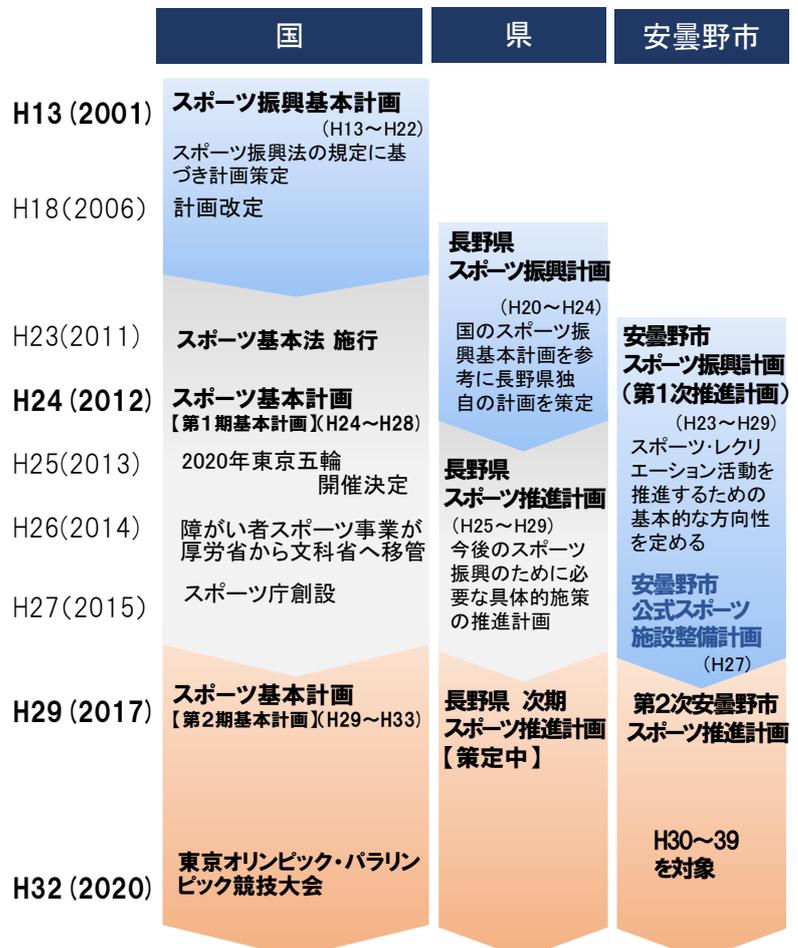
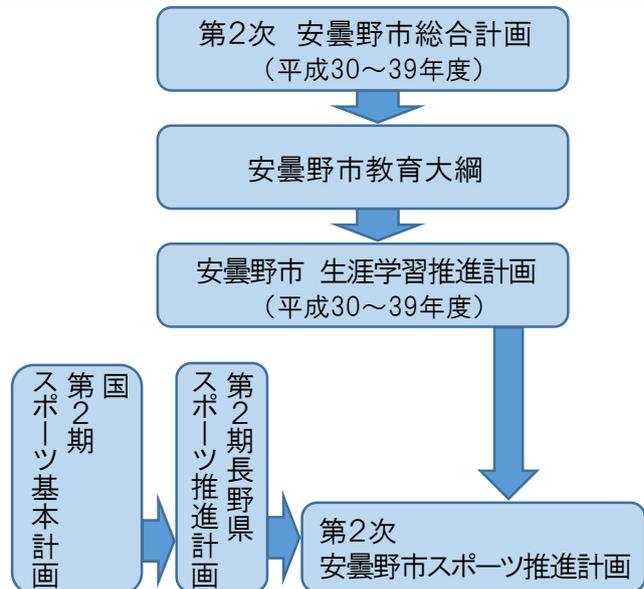


図1 上位計画の変遷と本計画との関係

## 2. 計画の性格と位置付け

- ① 本計画は、国のスポーツ基本計画、長野県スポーツ推進計画の理念を踏まえ、本市及び本市教育委員会が今後10年の期間を対象として、市内でのスポーツ推進に関する基本的な方向性を定めたものです。
- ② 本計画は、本市におけるスポーツ推進を総合的・効果的に推進するために、市民、地域、学校、行政、その他関係機関が連携を図りながら取り組むための指針となるものです。
- ③ 本計画は、「第2次安曇野市総合計画」などの関連計画との整合性を図りながら策定しました。



## 3. 計画の期間

計画の対象期間は平成30（2018）年度から平成39（2027）年度までとし、次の2つの視点に重点を置いて計画を定めます。

- ①10年間（平成30（2018）年度から平成39（2027）年度まで）を見据えての基本方針の設定
- ②当面5年（平成30（2018）年度から平成34（2022）年度まで）の間に取り組むべきことの明確化

## 4. 上位計画の概要

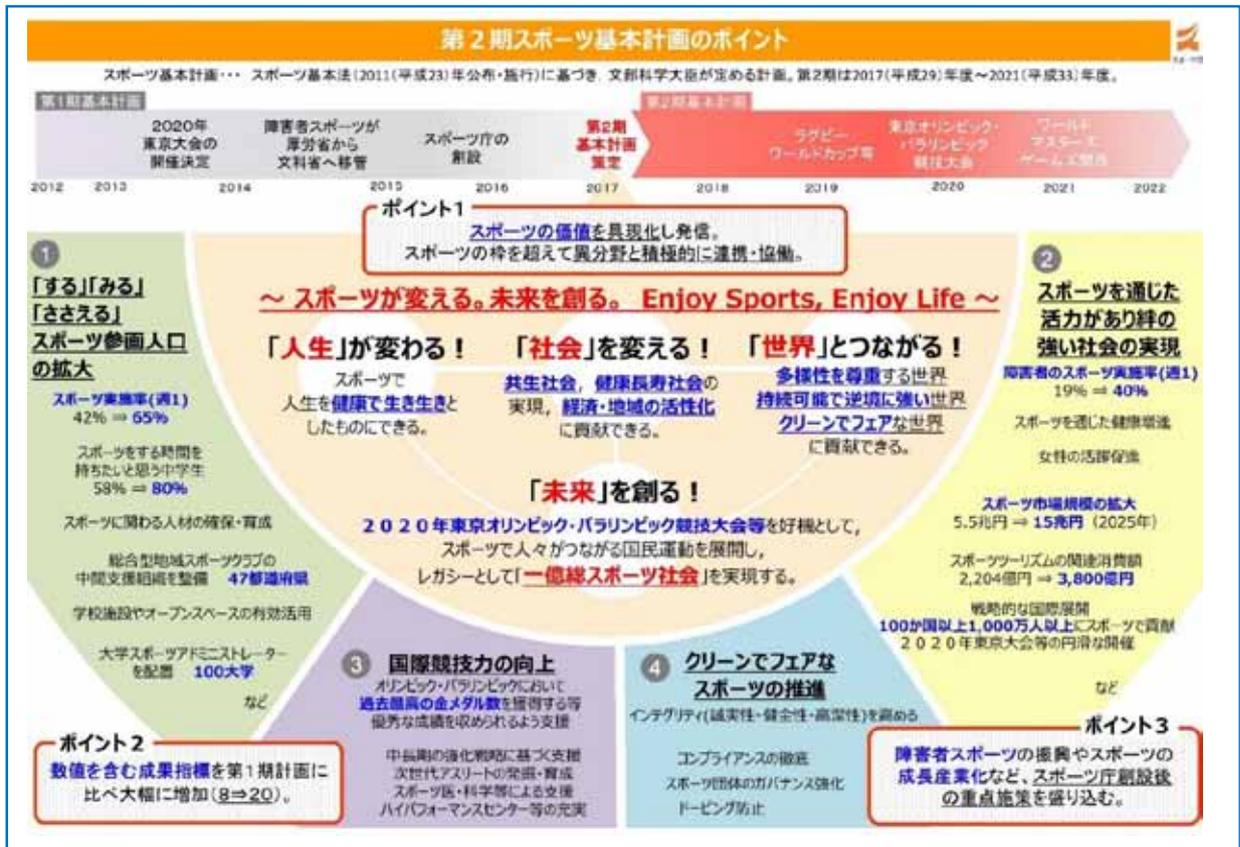
本計画の上位計画にあたる国の第2期スポーツ基本計画、第2期長野県スポーツ推進計画の概要を下記及び次のページに整理します。

### ●国の第2期スポーツ基本計画の特徴

- 中長期的なスポーツ政策の基本方針として、計画の理念を「スポーツの価値」として具体化。～スポーツが変える。未来を創る。～Enjoy Sports, Enjoy Life～
- 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策では、施策体系を大括り化（4つの政策目標）し、数値目標を8から20に増加。

### ●第2次長野県スポーツ推進計画（原案）の特徴

- 本県のスポーツ界の歴史に新たなページを刻む2027年の国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の開催を見据え、10年後の目指す姿と今後5年間（2018年度～2022年度まで）に取り組む施策を明らかにした計画。
- 「運動遊び」、「ゆる部活」などの概念も意識し、多様なニーズに応えたスポーツ推進方策の具体化が行われている点が特徴。



【参考1】第2期スポーツ基本計画の概要（スポーツ庁ホームページ）

## 10年後の目指す姿と施策の展開

### 基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

- (1) 幼児期からの運動の習慣化
- (2) 学校体育・運動部活動等の充実
- (3) 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実

### 基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

- (1) ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
- (2) 地域のスポーツ環境の整備

### 基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成

- (1) 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上
- (2) スポーツ界の好循環の創出

### 基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用

- (1) スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化
- (2) スポーツを通じた人々の交流促進
- (3) プロスポーツとの連携・協働の推進

【参考2】第2次長野県スポーツ推進計画(原案)（長野県ホームページより）

## 5. スポーツのとらえ方

本計画の根拠であるスポーツ基本法前文や第2条及び国の第2期スポーツ基本計画におけるスポーツの位置付けや具体像を踏まえ、本計画におけるスポーツのとらえ方を整理します。

### スポーツ基本法 前文

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動。

### 国の第2期スポーツ基本計画

スポーツには、競技としてルールに則り他者と競い合い自らの限界に挑戦するものや、健康維持や仲間との交流など多様な目的で行うものがある。例えば散歩やダンス・健康体操、ハイキング・サイクリングもスポーツとしてとらえられる。

### 第2次安曇野市スポーツ推進計画

本計画では、国のスポーツ基本計画の考え方と同様に、健康増進や体力向上、楽しみなどの意図を持って、余暇時間に計画的に行われる活動を対象としてとらえる。

一方で、健康増進法に沿った身体活動推進の取り組みも連携するべく、安曇野市での暮らしのなかでの身体活動の特徴なども踏まえた計画を検討するものとする。



図3 身体活動と運動の違い

図の出典：新しい身体活動基準2013身体活動指針(アクティブガイド)に基づいた保健指導 独立行政法人国立健康・栄養研究所 宮地元彦

### ライフステージに応じた運動の必要性

人間の身体は、骨・筋肉・神経が成長発達し、高齢期にはこれが低下に向かいます。安曇野市健康づくり計画・安曇野市老人福祉計画及び介護保険事業計画では、ライフステージのなかでの運動器の変化について触れ【下図参照】、それぞれのステージに応じた運動の実施を支援することが重要と認識し、必要な取り組みを進めています。

年齢	保育園・幼児園児	小学生	中学生	高校生	成人				高齢者		
	4～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
骨	紫外線、重力、圧力、カルシウムの摂取によって骨密度が高くなる				18歳 骨密度ピーク	閉経 女性ホルモンの影響で、大腿骨・脊椎の骨密度が優先的に低下					
筋力	12～14歳 持久力最大発達時期		14～16歳 筋力最大発達時期		筋力減少始まる		目立って減少		ピーク時の約2/3に減少		
神経	平衡感覚最大発達時期	10歳 運動神経完成	閉眼片足立ち(平衡感覚・足底のふんばり・大腿四頭筋の筋力・柔軟性)が20歳代の20%に低下								
足底	6歳 土踏まずの完成										
運動	園での遊び	体育の授業			運動習慣ありの割合が低い						
	持久力・筋力の向上				持久力・筋力の維持						

運動器を向上・維持するためには、全ての年代において、運動を行うことが重要

【参考3】運動器の変化と運動・スポーツとの関係 (長野県松川町保険活動計画等を参考に作成) 出典：安曇野市健康づくり計画

# 第2章

# 市民のスポーツとの関わりの現状

## 1. 市民のスポーツ実施率 ～世代・性別での相違～

### (1) 安曇野市民のスポーツ実施率の特徴

#### ●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況(スポーツ実施率関連)

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
1	成人の週1回以上のスポーツ実施率(%)	26.8	50.0	32.6

○平成29年2月に安曇野市で実施した平成28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査(市民2,000人を対象、842通回収、以下、市民アンケート調査とする。)では、安曇野市に住む成人の週1回以上のスポーツ実施率は32.6%でした。平成21年度の前回調査と比較して約6%上昇しました。

○全国規模の調査に基づくスポーツ実施率は42.5%であり、これに比べ安曇野市では10%ほど低い状況にあります(ただし全国調査での実施したスポーツの選択肢と安曇野市の調査での選択肢は異なりますので、参考値となります)。

○第1次推進計画の目標値50.0%には到達していません。これは全国対象の調査結果も同様です。

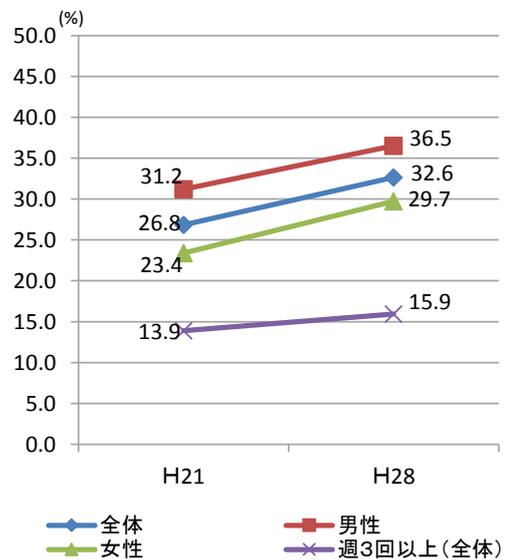
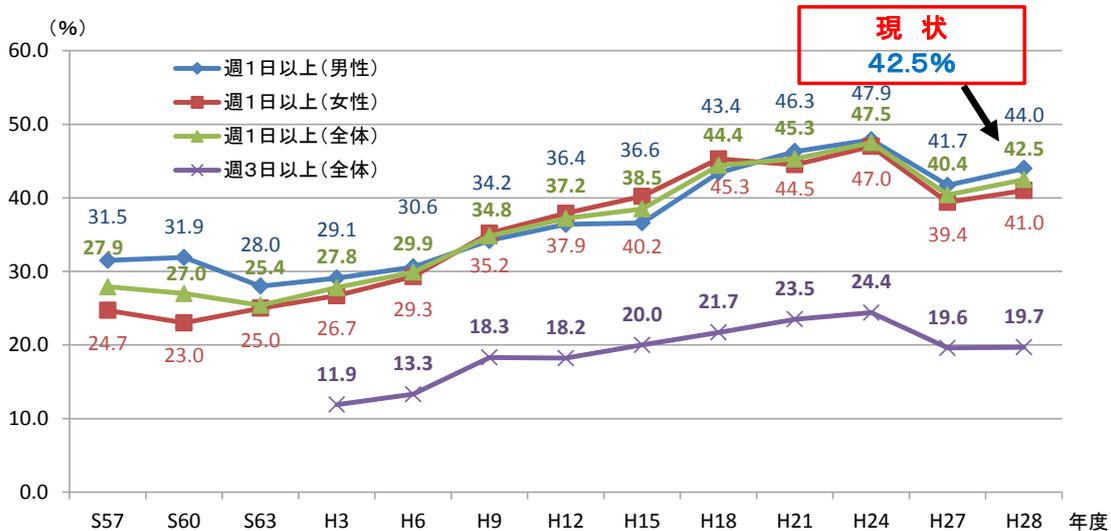


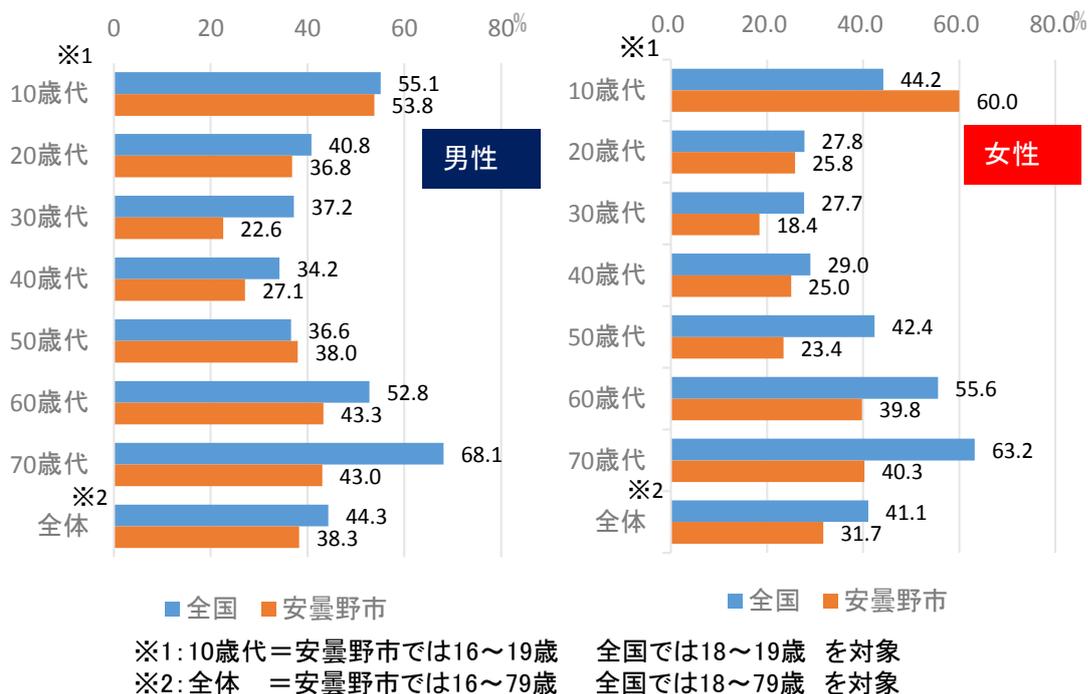
図4 安曇野市でのスポーツ実施率の推移  
(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)



(出典)「体力・スポーツに関する世論調査(平成24年度まで)及び「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査(平成27年度)」、「スポーツの実施状況等に関する世論調査(平成28年度)」

図5 全国対象で調査したスポーツ実施率の推移

## 性別・年代別スポーツ実施率についての安曇野市と全国の調査結果の比較



### 【安曇野市の特徴】

- 全国的な傾向と同様に子育て・労働世代でスポーツ実施率が下がる。
- 60代以上の実施率が全国に比べ、低い傾向。
- 女性の実施率が全国平均の4分の3程度。

図6 スポーツ実施率の男女・世代別特徴

## スポーツ実施率

スポーツ実施率は、成人で週1回以上運動をした人の比率のことです。ここでは、国と安曇野市それぞれの率の把握方法について補足します。

### ●国によるスポーツ実施率の算出

国で把握した平成28年度のスポーツ実施率は「スポーツの実施状況等に関する世論調査」で得られた結果を基にして算出された結果です。無作為抽出した対象者にメールで協力依頼を行い、目標回収数（20,000通）に達するまで回答をWEBで受け付ける手法で調査を行っています。

スポーツ実施率は、国勢調査や農林業センサス等のように、定期的に行う全国一斉の記入調査ではありませんので、この調査では国と自治体の違いは比較していません。

### ●安曇野市によるスポーツ実施率の算出

安曇野市では、市民のなかから、地域の人口配分、年齢配分に配慮しながら無作為に抽出した2,000名を対象に行ったアンケート調査をもとに算出しています。平成21年度調査以後の変化を把握することに主眼を置きましたので、両年度の調査における行ったスポーツの選択肢は同じです。

実施したスポーツの選択肢も、国で平成28年度に実施した調査と安曇野市の調査では、環境条件も異なりますので、完全に一致してはいません。前者にはキャンプ・オートキャンプ、釣りなどのレジャー的な要素も含まれています。このことを念頭において比較する必要があります。

## (2) スポーツ実施を阻む要因

市民アンケート調査の結果から、スポーツを行わない理由を世代・性別の組み合わせで整理したところ、次のような傾向が把握されました。

### ●運動・スポーツを行わない理由

- 10代以下は「運動よりも他のことに興味があるから」の回答が特徴的。
- 20～50歳代の男女は「家事や仕事が忙しく時間がない」の回答が多い。  
男性は「面倒だから」、女性は「身近に運動する場所がない」との回答も多い。
- 60歳以上の男女では「年をとったから」「ケガや病気のため」との回答が多い。

### ●運動・スポーツの時間を増やすための条件

- 10代以下、20～50歳代は「時間に余裕ができる」という回答の比率が最も高い。
- 時間以外の要素については、男性で「一緒に運動する仲間がいる」、女性で「金銭的な不安が少ない」「自分がやりたい種目の教室・サークルがあること」があげられている。
- 60歳以上は「身近に運動をする場所がある」という回答の比率が最も高い。

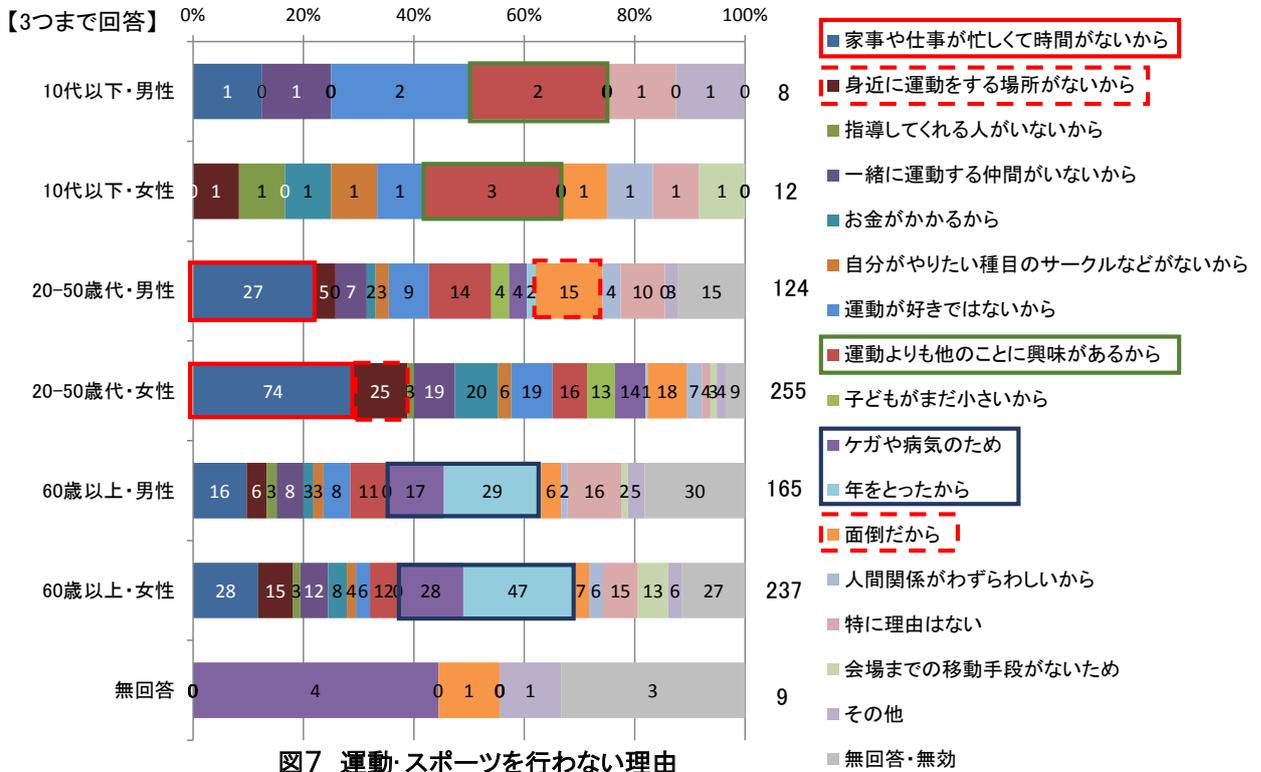


図7 運動・スポーツを行わない理由

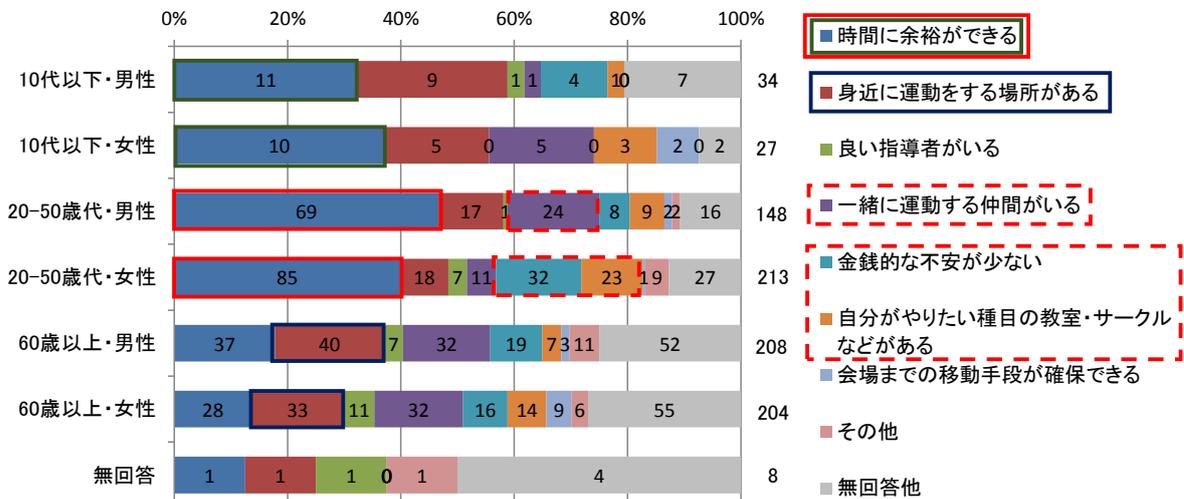


図8 運動・スポーツの時間を増やすための条件

(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)

### (3) 市民のスポーツ参加拡大のキーワード

市民アンケート調査の結果から、スポーツを行う理由についても世代別で分析を行ったところ、どの世代も、健康・体力づくり及びスポーツを楽しむという理由が最も多いことは明白ですが、これらに続いて回答数の多い理由に関しては、世代によって様々です。

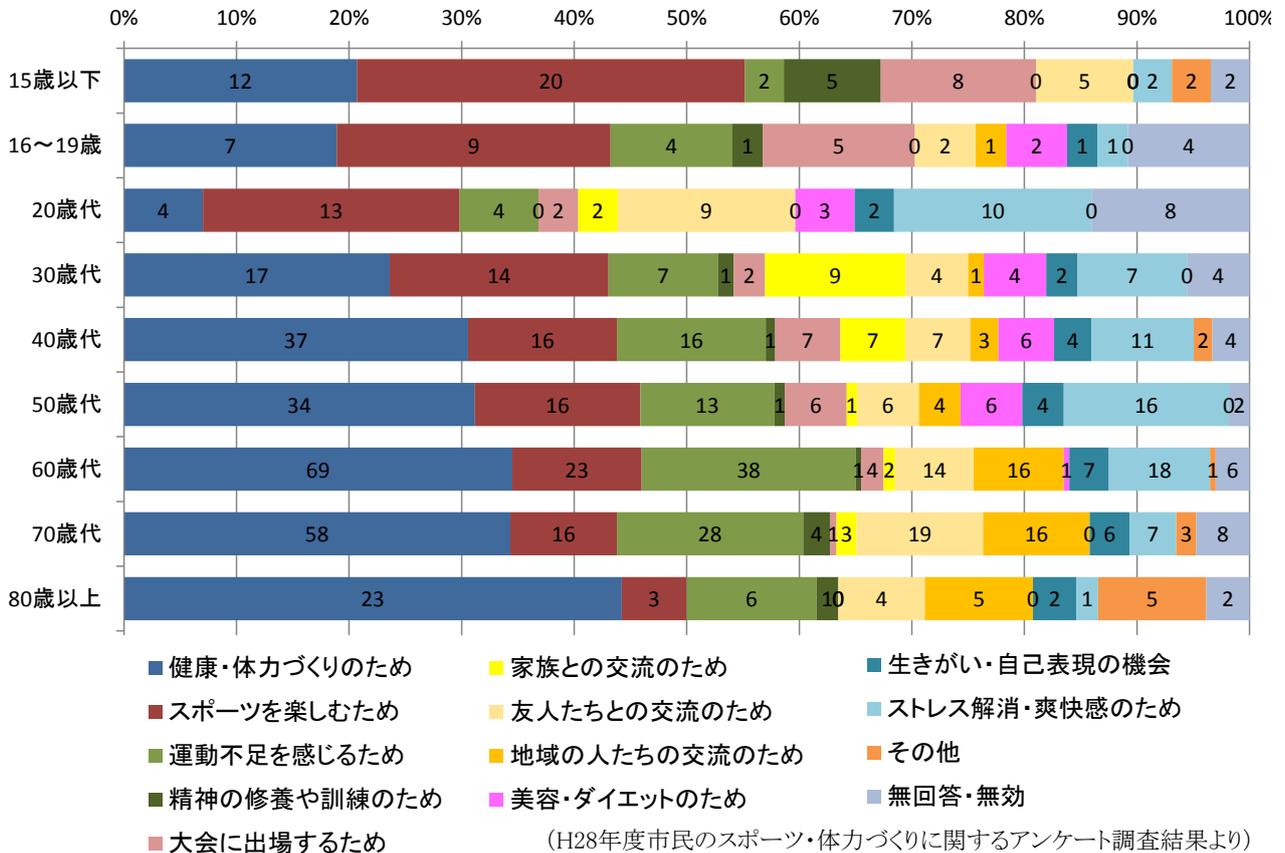


図9 運動・スポーツを行う理由(世代別分析)

「健康・体力づくり及びスポーツを楽しむ」に続く回答については、年齢層ごとに次のような特徴が見出されます。これらの参加理由は、今後のスポーツへの参加拡大の方策を世代に応じて展開するうえで重要なキーワードであり、市民全体のスポーツ実施率向上にもつながる視点であると考えられます。

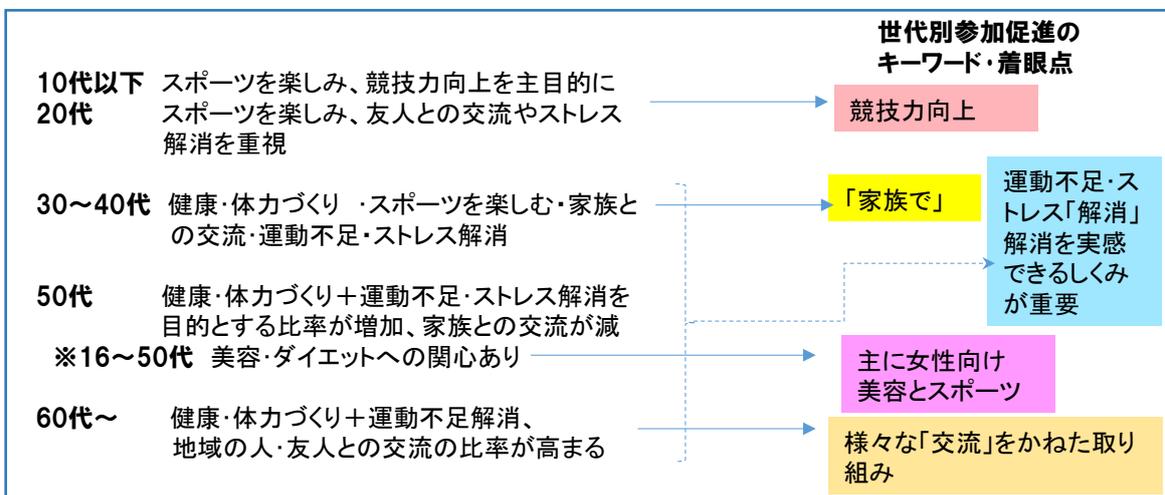


図10 「健康・体力づくり及びスポーツを楽しむ」以外の世代別実施目的

## 2. スポーツの実施機会提供と施設利活用の状況

### (1) スポーツイベント、教室・講座等への参加者数

市主催のスポーツイベント、教室や講座への参加者数は増加傾向にあり、第1次推進計画策定当時に比べると、15,000人以上増加しています。

#### ●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況（イベント参加）

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
4	スポーツイベント参加者数(人/年)	20,028	30,700	35,418

### (2) 施設利用状況の変化

下図に平成26年度から平成28年度までの間の公共スポーツ施設及び学校施設（市内の体育施設の状況は資料3を参照）の延利用者数の推移をとりまとめました。平成26年度は約70.6万人であったのに対し、平成28年度は66.6万人となっています。高齢化に伴うソフトボール競技者の減少など、全体的に減少の傾向が見受けられます。

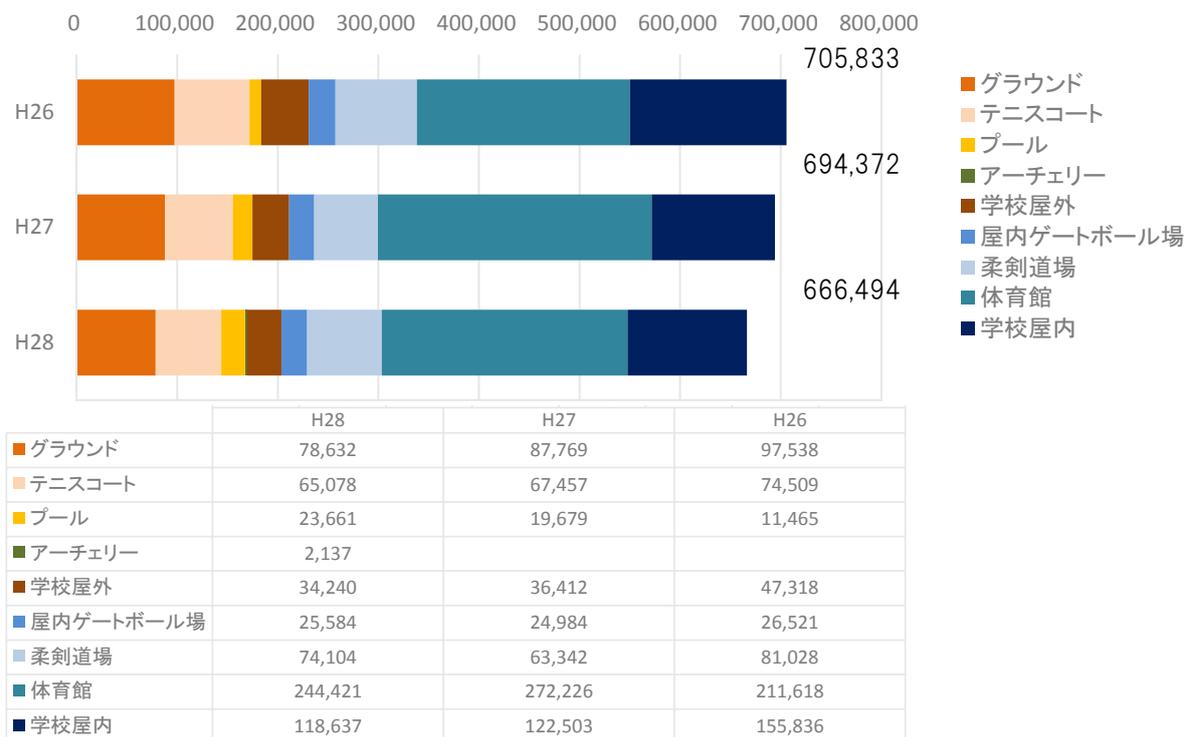


図11 平成26年度から28年度における施設種別の延利用者数の推移

#### ●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況（施設利用関係）

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
5	スポーツ・レクリエーション施設利用者数(人/年)	642,303	700,000	666,494

### 3. 小中学生の体力の変化

毎年実施されている全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学5年生男女、中学2年生男女を対象）の平成25年度以降の結果では、安曇野市の中学生女子の点数が毎年、全国平均値と比べて低い状態が続いています。

中学生男子では、全国平均とおおむね同水準、小学生は男女とも最近3カ年は全国平均を超えています。

なお、これらの調査結果については安曇野市体力向上推進委員会が毎年分析を行い、その結果を報告しています。

#### 【調査内容の概要】

##### (1) 児童生徒に対する調査

##### ① 実技に関する調査

小学校8種目

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

中学校8種目

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

##### ② 質問紙調査

##### (2) 学校に対する調査

子どもの体力向上に係る取組等に関する質問紙調査

《平成25～28年度の安曇野市と長野県・全国の体力合計点(平均)の一覧》

(◎高い ○僅かに高い □ほぼ同じ ▽僅かに低い ▼低い)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
① 小5男子	市T得点	□49.9	◎51.3	○50.8	◎51.2
	安曇野市	53.74	55.10	54.55	55.00
	県	54.07	53.84	54.10	54.20
	国	53.87	53.91	53.80	53.92
② 小5女子	市T得点	▼48.9	□50.3	◎52.1	◎51.0
	安曇野市	53.78	55.27	56.94	56.35
	県	54.35	54.66	55.40	55.29
	国	54.70	55.01	55.18	55.54
③ 中2男子	市T得点	▽49.2	○50.5	▽49.4	□50.0
	安曇野市	41.01	42.19	41.27	42.11
	県	41.87	42.11	42.33	42.39
	国	41.78	41.74	41.89	42.13
④ 中2女子	市T得点	▼48.4	▼47.7	▼47.8	▼47.4
	安曇野市	46.72	46.15	46.63	46.77
	県	47.01	47.38	48.83	48.65
	国	48.42	48.66	49.08	49.56

※体力合計点：小・中学校8種目の記録を年齢別、男女別の換算表により点数化(1～10点)し、その合計点を80点満点で表したものです。

※T得点：全国平均を50点としたときの換算点です。

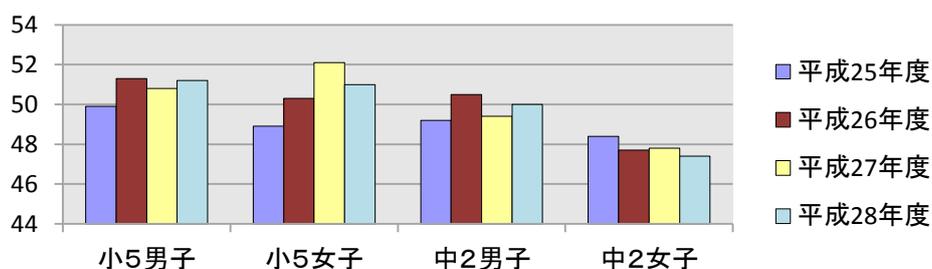
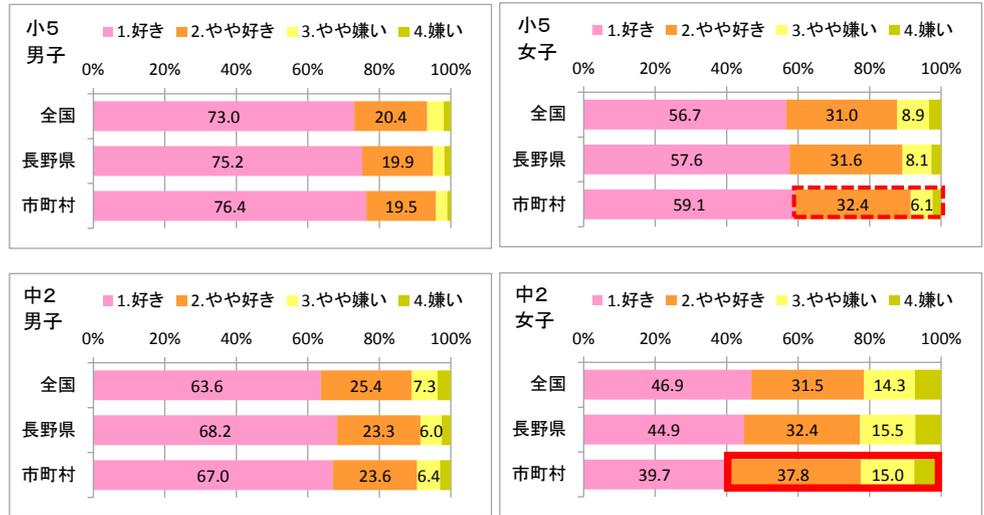


図12 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果(安曇野市)

【補足分析】 体力評価が全国水準に達しない中学生女子では「運動好き」が減る

体力の実技テストの合計点で全国平均より低い水準の中学生女子では、運動に対して「やや好き」「やや嫌い」「嫌い」という回答の比率が全国平均に比べて高くなっています。

女子では、小学5年から中学2年に至る過程で運動が「好き」という回答者が59.1%から39.7%に減り、男子に比べて顕著に運動に対する興味・関心が薄れていく傾向がみられます。



安曇野市体力向上推進委員会資料より（平成28年度）

図13 運動に対する好き・嫌いの比率(安曇野市)

## 4. 「する」スポーツを支える体制

市内の総合型地域スポーツクラブ（※）は掘金地域の1団体に限られており、第1次推進計画で目標とした2団体目の設立は進んでいません。また、クラブの認知度も、7年前の調査に比べ3%ほど低下しました。

さらに、高齢化や人口減少の傾向もあいまって、体育協会加入者も減少傾向にあります。

少子高齢化や人口減少の影響で、「する」スポーツを支える体制の高齢化、指導者の不足などが懸念されます。

### ●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況（人材・推進体制関係）

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
2	総合型地域スポーツクラブ数(クラブ)	1	2	1
3	総合型地域スポーツクラブ参加者数(人/年)	498	980	480
9	総合型地域スポーツクラブ認知度(%)	17.0	35.0	14.0
6	体育協会加入者数(人/年)	6,881	8,000	6,214
8	クラブ、サークル所属率(%)	22.5	30.0	22.7

※ 総合型地域スポーツクラブ

人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、(1)子どもから高齢者まで（多世代）、(2)様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、(3)初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブをいいます。

## 5. 年齢の積み重ねと運動不足により生まれるリスクへの対応

年齢を積み重ねるごとに運動不足が顕著になると、生活習慣病のリスクのほか、運動器の障害のために自立度が低下し介護負担等が増えるリスクも高まります。このため、年齢層に応じた運動のあり方にも着目をしていく必要があります。

### (1) 市民の年齢層ごとにみた「体力の自信」の程度の特徴

第1次推進計画の目標値のひとつである「体力に自信のある」人の比率（市民アンケート調査による）は、平成21年度と平成28年度の両年度ともに6.7%で変化がありませんでした。しかし、世代や自信の程度を細分して分析すると、スポーツ実施率が異なるのと同様に、自身の体力の評価についても、世代ごとのライフスタイルの違いが反映されています。

#### ●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況（体力の自信に関する項目）

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
7	体力感(体力に自信のある人)(%)	6.7	15.0	6.7

市民アンケート調査の結果から、体力への自信の程度と男女別・年齢層の関係をみると、「自信がある」という回答は大半の世代で10%を割っており、「まあ自信がある」や「あまり自信がない」「自信がない」などの回答比率が年代に応じて大きく変化しています。その傾向は次のようにまとめることができます。

- 男女共通で、30代から40代、60代、70代、80代へと年を重ねる際に「まあ自信がある」という人の比率が下がり、「自信がない」という人の比率が高まる。
- 男性は40代から50代、70代から80代の移行期、女性は60代から70代の移行期に自信の低下が顕著である。
- 体力への自信が下がる傾向が目立つ「働き盛りの世代」と「高齢世代」の体力づくりへの意識向上につながるような取り組みが重要になる。

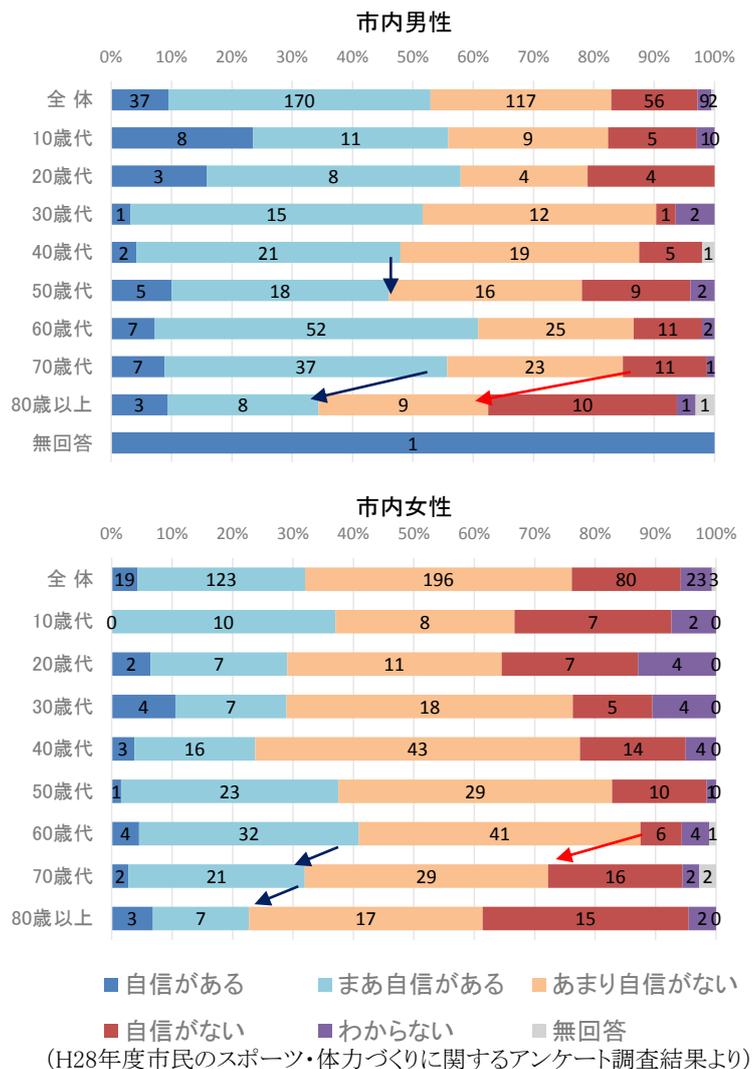


図14 体力への自信に関する性別・年齢層別回答

## (2) 中高年世代の身体活動・運動

特定健診・後期高齢者健診の質問票結果から、「日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合」、「運動習慣者の割合」について、近年の状況を男女・世代の区分でまとめてみると、勤労世代（20～64歳）に比べ高齢世代（65歳以上）でその比率が男女とも高くなっています。

しかし、高齢世代では、平成26年度以降、いずれの比率も低下の傾向がみられます。勤労世代は年度により増減がみられ、日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合は、男女とも平成25、26年度で相対的に高い値となっていますが、その後は幾分低下する傾向にあります。

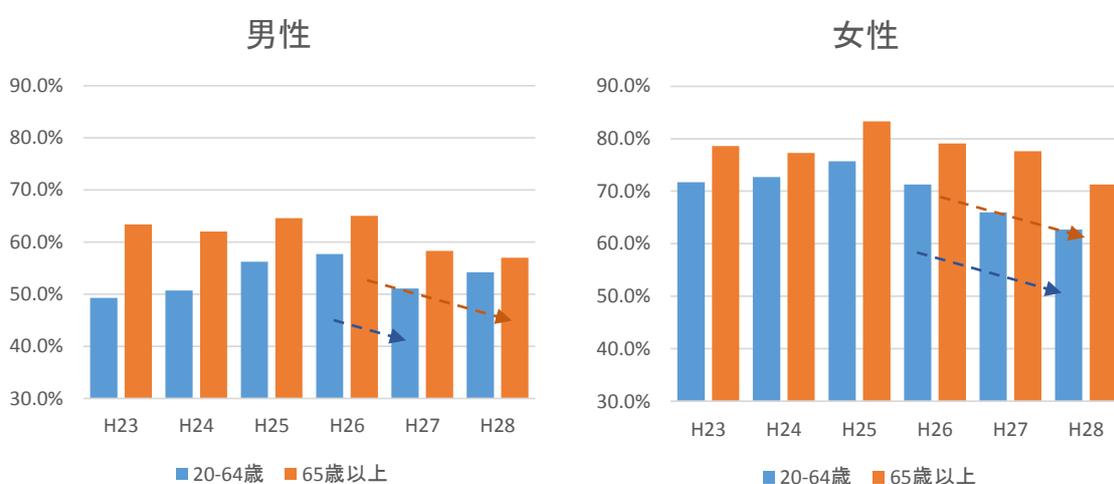
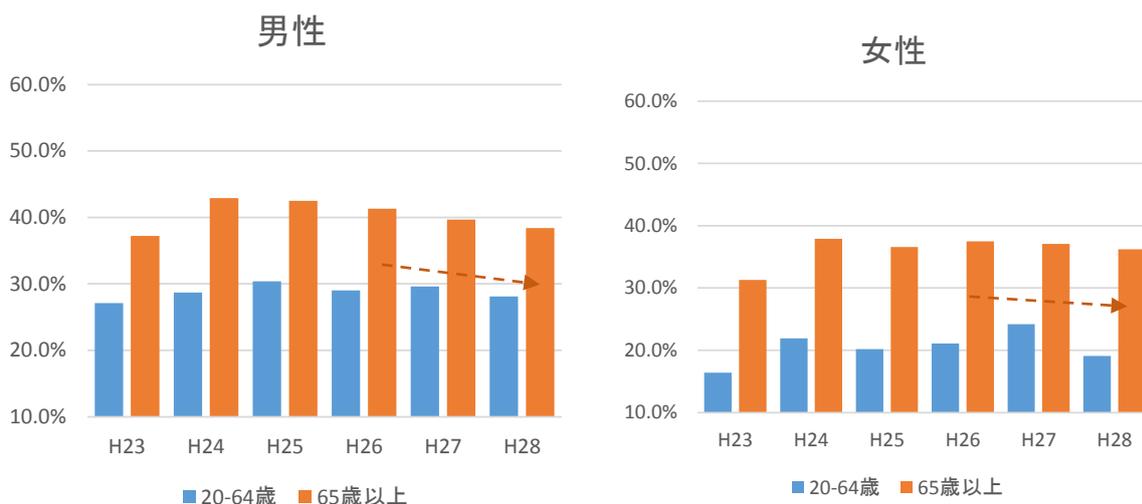


図15 日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合



(※)運動習慣者とは、1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者  
(安曇野市健康推進課資料:特定健診・後期高齢者健診の質問票結果より)

図16 運動習慣者(※)の割合

## 6. 市民の望むスポーツ推進策（平成21年度と平成28年度調査の比較から）

市民アンケート調査の結果から、安曇野市のスポーツ推進を図るために必要だと思うことを、平成21年度調査と平成28年度調査の結果の差が大きい順（増加率の高い順）に整理しました。

上位に位置したのは、優れたスポーツ指導者の増加、身近に利用できる施設、ハイレベルで活躍できる選手の育成、年齢層にあったスポーツの機会増加、トップレベルの大会開催等でした。

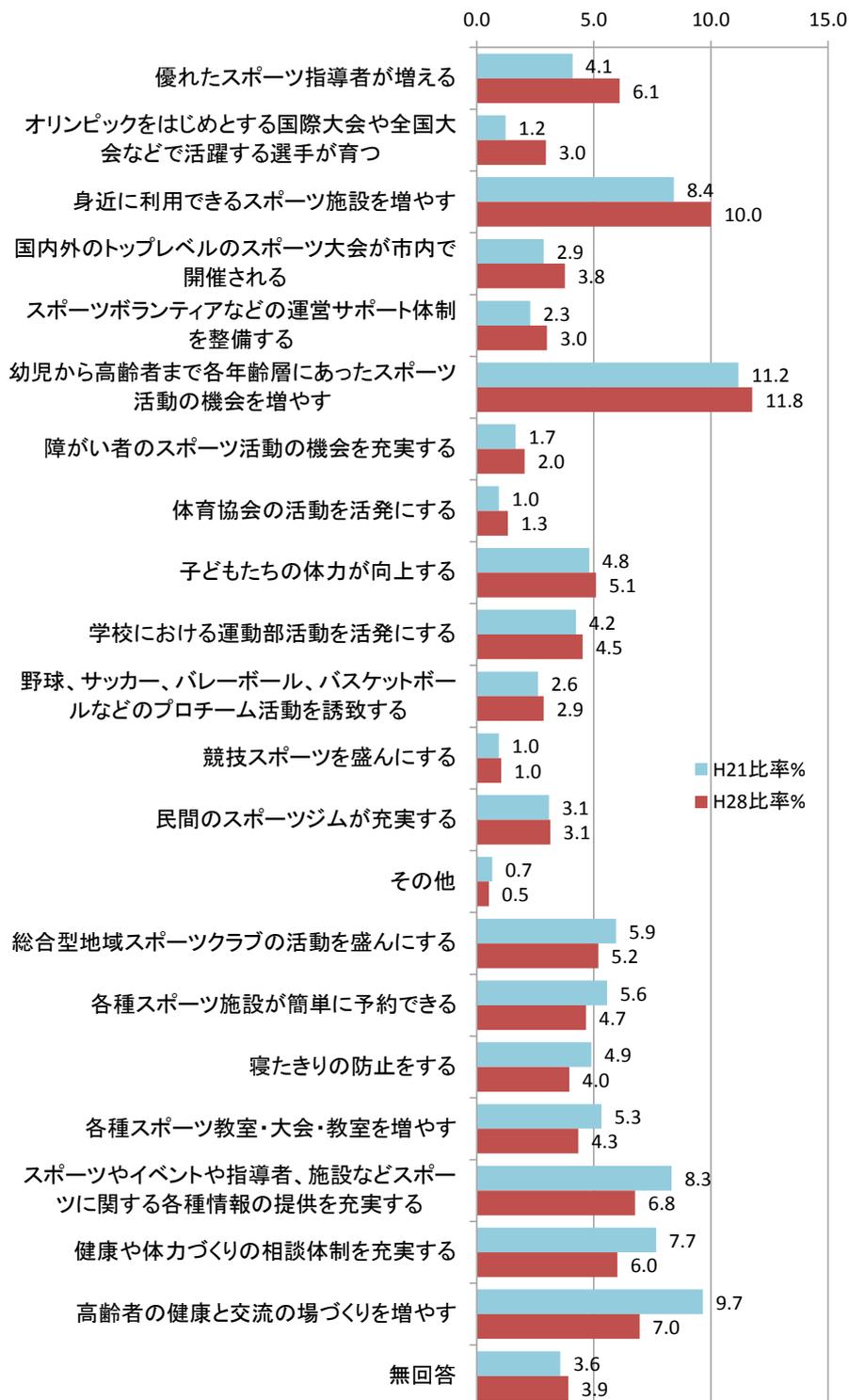


図17 安曇野市のスポーツ推進に必要な取り組み

(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)

# 第3章

## 計画の目指すところ・目標

### 1. 将来像

#### 笑顔あふれ活力みなぎる 健康スポーツ都市 安曇野

スポーツは人間が生命を維持するうえで欠かせない身体活動のひとつであり、スポーツをすることで健康維持、精神育成等様々な面で効果を得ることができます。また、スポーツは、市民一人ひとりの適性や関心に応じて取り組むことができ、一部の人々に限られることのない「みんなのもの」でもあります。スポーツを「する」ことでみんなが「楽しさ」「喜び」を得ること、これはスポーツの価値の原点です。

安曇野市では、スポーツを「する」ことから生まれる「楽しさ」「喜び」を大事にし、みんなの笑顔や元気を生み出し、健康な暮らしを送りながら、スポーツを通じた様々な交流を促進し、そこで育まれる活力をさらに大きくすることが重要と考えます。

以上のような思いをこめて、これから10年で目指すスポーツ推進の将来像を「笑顔あふれ活力みなぎる 健康スポーツ都市 安曇野」と定めます。

## 2. 基本目標

### 基本目標1 市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進

情報化社会の急速な発展に伴う市民の嗜好や生活様式（ライフスタイル）も多様化しています。一方で、高齢化も進み、市民の健康への意識は高まっています。

スポーツへの関わり方も世代やライフスタイルに応じて様々です。競技スポーツで心身を鍛える若い世代から親子で楽しむ子育て世代、健康の持続に意識の高い熟年世代、介護予防に関心を持つ高齢世代…。この多様さを受け入れることのできる環境や条件を整えることが大切です。

より多くの市民がそれぞれの考えに沿ったスポーツとの関わりを持てる機会や場づくりに努め、「する」スポーツの継続と新たな参加を促し、笑顔があふれ、心身ともに健康な暮らしにつなげていくことを目指します。

### 基本目標2 「する」スポーツを支える体制・しくみの充実

急速な高齢化、個々の意識の多様化の進行とともに、スポーツを伝え、受け継いでいくしくみにも変化がみられます。指導者の後継者不足、子どもの減少に伴う部活動や育成のしくみの衰退などが進み、市民がスポーツをする、あるいはスポーツへの参加促進を図るための基盤が揺らぎつつあります。

変化の激しい時代に適応しながら、市民のスポーツ参加を多様なスタイルで促すため、スポーツ指導者やスポーツをする人を支えている様々な人材が意欲的に継続して関与し、仲間を増やすことのできるような環境を整えることを目指します。

「する」スポーツを支える体制としくみを、より時代にあったものへと改めていくことに取り組みます。

### 基本目標3 安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出

スポーツは健康づくりにつながるなどの参加する人だけが恩恵を受けるわけではありません。競技を通じた競技者同士の関わり、大会やイベントを通じた様々な人同士の交流や絆も生み出します。

安曇野市には、豊かな水環境、美しい景観、温泉など外部に広くアピールできる良好環境があり、この環境を活かしたスポーツイベントや交流は、国内でみてもここならではのものになり得る可能性を秘めています。

この可能性を高めるべく、市民一人ひとりへの効果だけでなく、地域の活力創造などにつながるスポーツ交流やイベントなどの取り組みも進めます。

# 第4章

## 実現のための施策

3つの基本目標に沿って、その実現に必要な基本的な施策を整理し、体系図としてとりまとめました。

### 基本目標

### 基本施策

#### 基本目標1

市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進

- ①子どものスポーツの推進
- ②「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進
- ③ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり
- ④効果的なスポーツ情報サービス
- ⑤公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善

#### 基本目標2

「する」スポーツを支える体制・しくみの充実

- ⑥地域で支えるスポーツ推進体制の基盤づくり
- ⑦健康増進に関わる多様な主体の連携強化
- ⑧総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化

#### 基本目標3

安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出

- ⑨障がい者スポーツを広める場と体制づくり
- ⑩豊かな環境を活かしたスポーツ交流
- ⑪「する」「見る」スポーツを通じた多様な交流の拡大
- ⑫東京五輪・長野国体準備を通じた各種交流

次のページ以降に、基本施策ごとに市民のスポーツとの関わりと、第1次推進計画以後の市の取り組みにおける現状と課題を踏まえながら、今後の施策の展開を示します。

## 基本目標1 市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進

安曇野での暮らしのスタイルと世代の違いにふさわしいスポーツ参加促進のための機会と場を生み出すことに重点を置きます。

### 基本施策① 子どものスポーツの推進

#### 【現状の主な取り組みと課題】

##### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・安曇野市では特に中学生女子の体力が全国平均に比べ低く、運動が好きと回答する生徒が顕著に少ない傾向にあります（本書11ページ【補足分析】参照）。子どもたちの体力の維持・向上の根底にはスポーツを「好き」と感じる事が重要である傾向が見出されます。
- ・この傾向から、幼少の頃から親子でスポーツに親しむ場面を生み出すことや、達成感や成功を感じることでできる体験を積み重ねる機会の拡充が重要です。

##### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・安曇野市では、平衡感覚や運動神経が発達する幼少期（本書4ページ【参考3】参照）からの基礎体力向上に向け、コーディネーショントレーニングの拡充に力を入れ、特に認定こども園に関してはほぼ全園で事業を実施してきました。しかし、指導者不足のため1園当たりの頻度が低下しており、認定こども園の先生に対して指導を行っていく必要があります。
- ・また、学習会、出前講座の開催などにも力を入れ、親子、シニア等各世代にも、その効果や特徴への理解を深める機会を設けました。
- ・子どもたちの運動への抵抗感を緩和するうえでも、このトレーニングを小学生の低学年（運動神経が完成する10歳程度）まで継続できる運営体制を構築する必要があります。
- ・安曇野市のスポーツ少年団の参加人数・参加団体は増加傾向にあり、県下で団数は上位1位、団員数は上位2位で、活発な活動が展開されています。今後もこの状況を維持するべく、子どもたちの体力づくりやスポーツへの興味・関心を高める取り組みの継続が重要です。

表1 コーディネーショントレーニング(COT)普及等に関する講座等の実施概要(H23~28)

施策区分	事業内容
指導者の育成	COT学ぶ会
学習会、出前講座の開催	COTキッズ教室
	COT実践トレーニング
	COTジュニア教室、COTシニア教室
	COT幼保派遣事業
	COT親子体験会、高齢者体験会

※ コーディネーショントレーニング

子どもたちのなかには、バランスをとるのがうまい子や、リズムに合わせてからだを動かすことが得意な子がいます。このような子どもたちの動きに隠されているのが「コーディネーション能力（状況を目や耳などの五感で察知し、それを頭で判断し、具体的に筋肉を動かすといった一連の過程をスムーズに行う能力）」であり、この能力を高めるための、科学的に裏付けられた、楽しんで取り組むことのできるトレーニング方法

## 【 施策の展開 】

- ◇:既存施策の改善・拡充
- ◆:新規施策

目標指標 運動好きの割合(%) 60.6%→70.0%

※小学5年生、中学2年生の男女平均

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査

### ◇コーディネーショントレーニングのさらなる推進

- ・幼児を対象としたコーディネーショントレーニングの実施を今後も継続するとともに、指導者の育成を進めます。
- ・コーディネーショントレーニングの効果をさらにあげるため、小学校のカリキュラムに組み込まれるようにモデル事業を展開します。

### ◇スポーツ少年団活動への支援

- ・体育協会との連携を図り、スポーツ少年団の活動を支援し、子どものスポーツ活動の機会の充実に取り組みます。

### ◇親子参加のスポーツ体験企画の充実

- ・これまでに開催した親子で参加するスポーツ教室の実施実績を踏まえながら、ターゲットやテーマの設定に工夫を加え、市民のニーズや課題の解決につながる企画の立案を進めます。

### ◆「生涯の健康づくり」の意識を取り入れた学習の機会の提供

- ・中学生女子などの運動への関心向上に向け、親子向けの講習の機会や、健康な人生を送るうえでの運動やスポーツの効果などに理解を深める機会を設けます。

## 安曇野市スポーツ少年団

「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを！」「スポーツを通じて青少年のからだところを育てる組織を地域社会のなかに！」と願い、「安曇野市スポーツ少年団」は平成19年に発足。現在、68団体約1,877人の団員たちが活動しています。

表2 安曇野市スポーツ少年団登録団体一覧

団体名	登録単位団体名 H29.4現在
柔 道	●豊科柔道 ●安曇野市柔道クラブ
剣 道	●豊科剣道 ●穂高剣道 ●堀金少年剣道クラブ ●三郷少年剣道クラブ ●明科剣道 ●夢 未来「対山館」AZUMINO
ミニバスケット	●豊科ミニバスケット ●穂高ミニバスケットボールクラブ ●安曇野三郷ミニバスケット ●安曇野堀金ミニバスケット ●明科ミニバスケットボール
空 手	●豊科空手道 ●武道空手少年クラブ安曇野道場 ●穂高空手道 ●真武館 ●三郷少年空手クラブ ●公和館三郷文化 ●堀金少年空手クラブ ●明科空手
サッカー	●豊科南サッカー ●アルフット安曇野ジュニア ●FC AZUL ●穂高少年サッカースクール ●三郷サッカー ●三郷サッカーJY ●堀金サッカー ●明科サッカー中学 ●明科サッカー ●安曇野グリーンヒル
卓 球	●豊科卓球 ●穂高卓球研究会 ●堀金少年卓球クラブ
バドミントン	●豊科ジュニアバドミントン ●穂高バドミントン ●明科バドミントン ●安曇野シニアバドミントン
硬式野球	●安曇野南リトルシニアリーグ ●安曇野穂高少年硬式野球連盟 ●豊科少年硬式野球協会 ●三郷少年硬式野球協会 ●堀金少年硬式野球協会
軟式野球	●軟式野球学童豊科クラブ ●豊科野球クラブ ●三郷学童野球クラブ ●明科少年野球クラブ ●明科野球クラブ
合 気 道	●あづみ野少年合気道クラブ ●穂高合気道
乗 馬	●安曇野市乗馬
ソフトテニス	●豊科ソフトテニス ●ソフトテニスあづみ野クラブ
弓 道	●豊科弓道
バレーボール	●豊科ジュニアバレーボールクラブ ●穂高キッズバレーボールクラブ ●少年バレーボール三郷クラブ ●三郷SVB ●キッズバレー堀金Wish ●安曇野JVC ●安曇野ジュニア教室 ●安曇野明科Jrバレーボール
ラグビー	●安曇野ラグビースクール ●三郷少年ラグビースクール
エアロビクス	●穂高ジュニアビクスサークル
体操・新体操	●わくわくKID'S ●三郷新体操
野外活動・多項目	●楽動隊

## 基本施策② 「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進

### 【現状の主な取り組みと課題】

#### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・安曇野市民のスポーツ実施率は、平成28年度の調査では7年前の調査に比べ約6%増加しましたが、全国平均には10%ほど及びません。実施率を高めるには、新たにスポーツの機会への参加を促すしかけが必要です。
- ・新たにスポーツを始めることを促す主要なターゲットは、健康づくりへの意識が高く、相応に時間のある「高齢者」と、将来の安曇野市を担う「子どもたち」と考えられます。
- ・このような人々に対して参加を促すことのできる種目としては、競技人口が少なく、誰もが気軽に参加しやすく、体を動かすことから始める体操などの軽スポーツが挙げられます。
- ・市民アンケート調査の結果から、今後の参加希望率の最も高い種目はウォーキングです。歩くことは健康づくりにも効果があり、歩くきっかけを提供する取り組みは今後さらに重要になります。

#### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・健康に歩くための工夫を伝えるため、市では、インターバル速歩講座、ノルディック・ウォーク講習会などの講座を開催しています。
- ・市では、熟年・壮年世代の初心者向けの講座（スポーツ吹矢などの軽スポーツの教室等）にも力を入れています。
- ・これらの種目は、初めてスポーツに取り組もうとする人の動機付けとして今後重要になると考えられます。

表3 初心者向けの講座等に関する実施概要(H23～28)

施策区分	事業内容	施策区分	事業内容
親子向けスポーツ教室の開催	親子体操教室	歩くことから始める健康づくり	安曇野ウォーキング
	親子初心者カヌー体験会		インターバル速歩講座
	親子スポーツ教室		里山ウォーク
就学前の子どものスポーツ活動のきっかけづくり	わんぱくGYM教室		ノルディック・ウォーク講習会
	アーチェリー教室		ポールウォーキング講習会
未経験者、初心者向けのスポーツ教室の開催	スマイルステップ教室		
	ニュースポーツ教室		

### 【施策の展開】

- ◇：既存施策の改善・拡充
- ◆：新規施策

#### 目標指標

軽スポーツ及び競技スポーツ初体験会の教室<sup>※</sup>の参加者数  
76 → 200 (人/年)

(※生涯学習課主催分)

#### ◇軽スポーツ推進への重点化

- ・初心者向け、未経験者向け、親子参加のスポーツ体験のメニューとして、軽スポーツをテーマにした教室や講習の機会の拡充を図ります。
- ・初心者向けのスポーツの講座や体験会を実施する際の用具の購入等の拡充を図ります。

#### ◇競技スポーツの気軽な体験機会の充実

- ・卓球、バドミントンなどの競技スポーツを経験したことのない人たちが、気軽に体験できる教室や講座の充実を図ります。

#### ◆「ウォーキング」ニーズに応える新たな取り組み

- ・市民一人ひとりが歩いてポイント等を貯め、特典を得ることができるしくみを展開するなど、ウォーキング+αの魅力をつくりだし、参加と実践の意欲を高める方策の研究を進めます。

## 基本施策③ ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり

### 【現状の主な取り組みと課題】

#### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・市民アンケート調査の結果から、今後力を入れるべき取り組みとして「幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす」、「身近に利用できるスポーツ施設を増やす」という回答が上位を占めています。
- ・市内では、20代後半、30～50代のスポーツ実施率が低く、この世代の参加促進が重要です。
- ・一方でスポーツ実施の目的は世代によって違いも大きいため、様々なニーズに応じて「スポーツの場」を企画する必要があります。
- ・また、初心者の参加意欲に限らず、競技者のモチベーションの維持・向上にもつながる支援も必要です。

#### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・近年、講習会などへの女性の参加者数が増えている種目として、ヨガ等が挙げられます。このようなタイムリーなニーズを把握したうえで、成人向けの講習の企画運営を継続・拡充することが重要です。
- ・平成28年度に市内で開催されたスポーツイベントや教室・講習への参加者実績は35,418人であり、7年前に比べ大幅に増えました。このうち20～30人規模の教室や学習の機会は、大半が市主体で運営しており、今後は、スタッフの確保や体制の再構築も必要になると考えられます。

表4 安曇野市のスポーツ推進に必要な取り組み

順位	選択肢詳細	H28比率%	H21比率%
1	幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす	11.8	11.2
2	身近に利用できるスポーツ施設を増やす	10.0	8.4
3	高齢者の健康と交流の場づくりを増やす	7.0	9.7
4	スポーツやイベントや指導者、施設などスポーツに関する各種情報の提供を充実する	6.8	8.3
5	優れたスポーツ指導者が増える	6.1	4.1
6	健康や体力づくりの相談体制を充実する	6.0	7.7
7	総合型地域スポーツクラブの活動を盛んにする	5.2	5.9
8	子どもたちの体力が向上する	5.1	4.8
9	各種スポーツ施設が簡単に予約できる	4.7	5.6
10	学校における運動部活動を活発にする	4.5	4.2

(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)

### 【施策の展開】

- ◇: 既存施策の改善・拡充
- ◆: 新規施策

#### 目標指標

20～40代のスポーツ教室等参加率	25.7%→40.0%
親子で参加するスポーツ教室の参加者	434→600(人/年)

#### ◇成人のスポーツ参加を促す教室や講座の開催・拡充

- ・仕事や家事などでスポーツ活動が難しい状況にある世代に向け、スポーツ教室の開催日や時間、内容に工夫を加え、魅力あるスポーツ教室等を開催します。
- ・親子で楽しみながら将来の健康づくりも意識できるスポーツ体験や学習の機会を創出します。
- ・新総合体育館の整備とあわせて、創意工夫のある運営形態なども検討し、体験教室等の内容の拡充を図り、より多様なニーズに応えるスポーツ体験の教室や講座の開催を進めます。

#### ◇大会参加への支援

- ・全国大会などに出場する選手や団体に対して、激励金等を通じた支援を継続します。

#### ◆市民のスポーツ参加への関心を高めるしかけづくり

- ・スポーツ施設の利用や教室等への参加を促すきっかけとして、利用実績をポイント等として蓄積でき、一定の水準まで達した場合に特典を得られるようなしくみを官民連携で検討します。

## 基本施策④ 効果的なスポーツ情報サービス

### 【現状の主な取り組みと課題】

#### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・市民アンケート調査の結果から、今後力を入れるべき取り組みへの回答として「スポーツやイベント、指導者等の情報提供」が6.8%で上位4番目に、「各種スポーツ施設が簡単に予約できる」が4.7%で9番目に位置します（本書21ページ表4参照）。
- ・これらを合計すると11.5%となり、最上位の「年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす」と同等の水準であり、情報発信の充実に対するニーズが高い傾向にあることがわかります。
- ・市民がスポーツに関する情報入手する際の手段としては広報誌・回覧板等が上位を占めています。一方で、世代による違いもあるため、多様な手法での情報発信も必要です。
- ・また、人口の社会増が多い安曇野市では、スポーツに新たに参加する人や新たに住んだ人などが苦勞なく情報入手できるしくみを充実させる必要があります。

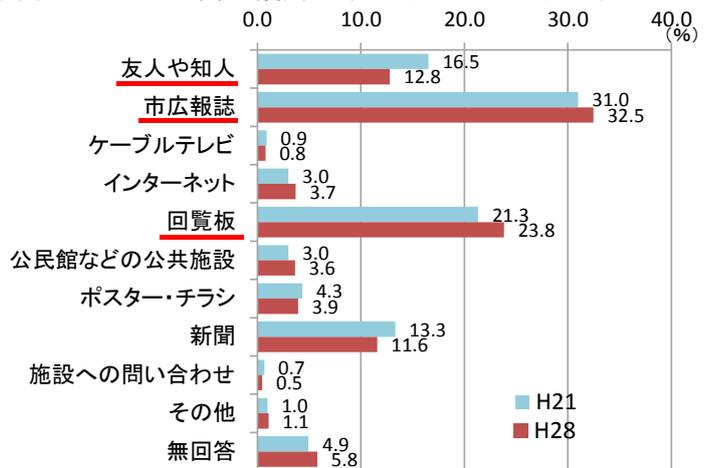


図18 スポーツに関する市民の情報源

(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)

#### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・スポーツ施設の予約システムの導入や利用料金の調整等を進め、施設利用申し込みの円滑化を進めました。
- ・市主催のスポーツ教室やイベントについては、市の広報誌等を中心に、情報発信を展開しており、総参加者数も第1次推進計画の目標値を超えています。

### 【施策の展開】

- ◇: 既存施策の改善・拡充
- ◆: 新規施策

#### 目標指標

広報誌、ホームページ、ツイッター等での情報発信回数

47→60 (回/年)

#### ◇市民ニーズに適合したスポーツ情報のさらなる発信

- ・適切な手法でタイムリーに情報を提供するため、地図情報などを有効に活用し「どこで、何をできるのか」がわかる情報や、指導者に関する情報を集約・整理して発信するなど、コンテンツに対応した発信方法に工夫を加えます。

#### ◆ポータルサイト設置・運営、SNSを活用した発信の検討

- ・情報受発信のツールの多様化に合わせ、インターネット、SNSを有効に活用して情報の受発信を進めます。

#### ◆官民連携での発信の検討

- ・スポーツ施設は公的施設だけでなく民間施設もあることから、双方での情報交換や、無駄や無理のない情報発信を、体育協会等と連携で進める方法を研究します。

## 基本施策⑤ 公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善

### 【 現状の主な取り組みと課題 】

#### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・市民アンケート調査の結果から、施設の寒さ対策の充実、観客の応援場所の充実、備品の老朽化や劣化対策等、施設の快適性・利便性の改善を求める声が多くあります。
- ・施設の利用者数は平成28年度の実績で666,494人であり、今後の利用促進に向け、施設の改善を継続的に進め、満足度の向上につなげていく必要があります。

#### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・公共スポーツ施設に関しては、第1次推進計画の内容を踏まえ、次のような改修・整備等を進めてきました。
  - ①耐震改修：穂高総合体育館改修（バリアフリー含む）
  - ②自然を活かしたスポーツ環境づくり：三郷黒沢マレットゴルフ場コース増設（27→36ホール）
  - ③新規整備：高家スポーツ広場整備
  - ④公式スポーツ施設整備計画に沿った施設整備の着手  
（豊科南部総合公園における新総合体育館の整備）
- ・今後は、豊科南部総合公園における新総合体育館の整備に、より多様なニーズを反映させ、利用者が満足できる施設の実現を目指す必要があります。
- ・上記の体育館整備に伴う豊科南社会体育館や豊科武道館剣道場の廃止（安曇野市公共施設白書に基づく）のほか、老朽化に伴う大規模改修を行った場合その効果が見出せない施設の廃止の検討などを進めながら、人口減少と今後の財政負担を考慮した施設の統廃合について、より明確な計画を定めていくことが必要です。

### 【 施策の展開 】

- ◇：既存施策の改善・拡充
- ◆：新規施策

#### 目標指標

施設利用者アンケートによる満足度 63.8% →70.0%

#### ◇既存施設の部分改修による快適性・利便性の向上

- ・上記以外の既存施設については、市民のニーズ、老朽化の程度、利用状況等に応じて優先順位を見定めながら、修繕や部分改修を継続します。
- ・改修等にあたっては、利用者の安全確保、快適性の向上に努めるとともに、より多くの市民がスポーツに親しめるよう、スポーツ施設のユニバーサルデザインに配慮した改善を計画的に進めます。

#### ◇新規施設の整備と既存施設の大規模改修等

- ・計画期間の前半5年間においては、次の施設を対象として施設の改善を進めます。
  - ①新規整備：豊科南部総合公園拡張と新総合体育館整備
  - ②大規模改修：三郷文化公園体育館等の改修（耐震化を含む）

#### ◆市内体育施設の統廃合等の将来計画の具体化

- ・計画期間の後半5年間も含む将来を見据え、平成28年度にスポーツ庁で策定されたスポーツ施設ストック適正化ガイドラインに沿って、市内の体育施設の将来的な長寿命化、統廃合等に関する具体的な計画を作成します。

## 基本目標2 「する」スポーツを支える体制・しくみの充実

少子化が進むなか、競技スポーツの将来の担い手が育ちにくい現状や、優れたスポーツ指導者を求める市民の声を踏まえ、次世代の担い手を育てていく指導者やスポーツ推進に関わる市民のモチベーションを持続できるしくみづくりに重点をおきます。

### 基本施策⑥ 地域で支えるスポーツ推進体制の基盤づくり

#### 【 現状の主な取り組みと課題 】

##### ○市民のスポーツとの関わりから

###### ①指導者の確保と育成

- ・市民アンケート調査の結果から、今後市が力を入れるべき取り組みのなかで、平成21年度調査と比べて最も回答者の比率が伸びた選択肢は「優れたスポーツ指導者が増える」でした。
- ・指導できる人がいない状態ではスポーツの継続が難しくなります。指導できる機会もつくることとあわせて、指導者の育成を図る必要があります。
- ・市内で進む人口の高齢化の影響は顕著で、指導者、推進体制の高齢化のほか、指導者のなり手不足の問題が発生しつつあります。

###### ②指導者相互の交流

- ・指導的立場・スポーツ組織のマネジメントに関わる人が相互につながりをつくり、日々の課題の解決の糸口をみつけたり、相互の刺激を得ることは、「支える人」の苦労を減らしたり、モチベーションの維持につなげるうえで重要です。
- ・関係者の所在や得意分野などの基礎的な情報も不足しており、スポーツ指導者のヨコの連携を強化する必要があります。

###### ③次世代への継承

- ・指導者の存在の有無のほか、少子化や競技種目への関心の変化も影響し、中学校で運営可能な部活動（競技種目）が限定される状況が続いており、運動部への入部者数の割合も減少傾向にあります。
- ・教員の日常業務の増加に伴い、教員だけでは部活動を支えられない状況が顕在化しており、地域で部活動を支えていくようなしくみづくりが必要な状況です。

##### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

###### ①指導者の確保と育成

- ・スポーツ指導者研修会を平成24、25、27、28年度に各1回開催しています。指導者の資質向上に向け、継続するとともに、人材も確保していく必要があります。
- ・指導者を確保するうえでも、第3者に対して指導能力があることを示す「指導者資格」の保有が重要です。指導的立場にいる人達からは、その資格の新規取得や更新への負担が大きいという声がきかれます。

## ②指導者相互の交流

- ・スポーツ推進委員会内に専門部を設置（子どもスポーツ部など5つの部）しています。人材の確保が難しい現状において、総合型地域スポーツクラブの新たな立ち上げなど、地域スポーツ振興の中心的な立場として活躍されることが期待されます。また、既存の組織で機能の低下した組織があれば改善も必要と考えられます。
- ・スポーツや健康に関わる有資格者やスポーツ指導者の生涯学習リーダーバンクへの登録を進めています。現時点では登録者も限定的であるため、このほかの登録のしくみも含め、人材情報の整理をさらに進める必要があります。

## ③次世代への継承

- ・堀金地域に設立されている総合型地域スポーツクラブ「スポネット常念」では、部活動のない分野の競技を補う形で堀金地域の子どもたちのスポーツニーズに応えています。
- ・こうした地域の組織との連携などを通じて、新たな指導者を確保する方法や確保できた場合の役割と責任の分担や、指導者が指導を継続できる環境づくりを、長野県、国などの取り組みとも連携・調整しながら進める必要があります。

## 【 施策の展開 】

- ◇：既存施策の改善・拡充
- ◆：新規施策

### 目標指標

スポーツ指導者講習会等の開催数	1→3(回/年)
スポーツ指導者連絡協議会(仮称)の設立	0→1(組織)

### ◇スポーツ指導者研修会の拡充

- ・スポーツ指導者の指導技術向上やコミュニケーションのスキルアップに向け、他の機関と連携し、研修会や講習会を充実させ、スポーツ指導者の資質向上に努めます。

### ◇指導者に関する情報の整理

- ・生涯学習リーダーバンク、スポーツ推進委員、部活動外部指導者（登録）などスポーツ推進の人材情報を一元的に集約し、関係者で共有できるしくみを構築します。

### ◇部活動指導員制度への対応

- ・学校教育法施行規則の一部改正（平成29年4月）に伴い「部活動指導員」が制度化されます。現在県で具体化を進めており、市ではその対応の検討を進めます。

### ◆スポーツ指導者連絡協議会の設立・支援

- ・体育協会などで活動するスポーツ指導者の相互の連携と資質向上のため、スポーツ指導者連絡協議会（仮称）を設立し、その活動を支援します。

### ◆指導者・ボランティアの育成支援

- ・様々な団体・組織が主催する障がい者スポーツ指導者、ボランティアの養成講座などについて情報提供を行い、市民の参加促進を図ります。

### ◆人材情報の有効活用

- ・中学校の部活動の指導等、人材を必要とする機関のニーズと確保された人材とをマッチングさせる連携や調整のしくみづくりについて検討を進めます。

### ◆資格取得の支援

- ・スポーツ指導の経験が豊富で、公的な指導者資格の取得や継続を目指す人を主対象として、資格取得の支援を行うしくみについて検討を進めます。

## 基本施策⑦ 健康増進に関わる多様な主体の連携強化

### 【現状の主な取り組みと課題】

#### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・特定健診・後期高齢者健診の質問票結果から、「日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合」、「運動習慣者の割合」は勤労世代に比べ高齢世代で男女とも高くなっていますが、平成26年度以降、いずれの割合も低下傾向にあります（本書13ページ参照）。

#### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・こうした動きを受け、中高年の健康維持、高齢者の介護予防のための身体活動とスポーツの取り組みに関しては、市内で様々な教室や体験の機会が提供されています。
- ・市では平成26年度より健康運動指導士を採用し、専門的な知見を活かした指導が可能な体制を整え、教室・イベント等で活躍しています。
- ・このようなニーズは今後も高まると考えられますが、これに対応する行政機関や民間の組織が相互に連携する体制が十分に整っているとはいえません。健康長寿のまちづくりの視点にたった効果的な連携を戦略的に進める必要があります。

表5 健康づくりに関する取り組みの実施概要(H23～28)

施策区分	事業内容
スポーツによる健康・体カづくりに向けた意識啓発	ウェープリングストレッチ教室
	各種体操教室(健康推進課の事業)
	かんたんエアロビクス&ストレッチ教室
	市歌体操(安曇野健康体操)の考案 <松本大学との連携>
	ピラティス教室
	ヘルスアップ教室
	ボディシェイプアップ教室
	やさしいエアロビクス教室
	安曇野らくらくスポーツカレッジ ※スポネット常念への委託
	初心者ヨガ教室
健康・体カづくりの推進	あづみのピンキラ体操教室(松本大学との連携)
	エンジョイシニア!実践お達者塾
	介護予防教室(太極拳等)
	シニア健康太極拳教室
	介護予防講習会「古武術を用いた身体の動かし方」「取り組もう!今日からロコモ予防」
	楽々太極拳教室(老人クラブ太極拳教室)
	足腰らくらく体操教室
	地区体操教室
目指せ脳の若返り!脳力アップ教室 <コグニサイズを用いたエクササイズ>	

### 【施策の展開】

#### 目標指標

健康づくりに関する庁内連絡会議(仮称)の開催 0→3(回/年)

- ◇:既存施策の改善・拡充
- ◆:新規施策

#### ◇健康長寿の視点からのスポーツや身体活動に関する情報の整理と発信

- ・庁内で取り組む健康づくり・健康増進に関する情報の共有をさらに進め、熟年世代や高齢者、運動不足傾向にある世代に向け、効果的なスポーツや身体活動に関する情報提供を進めます。
- ・効果的な情報発信などを通じて、市民が満足するスポーツ関連事業の推進を図るため、庁内での連絡組織の設置を進めます。
- ・特に中高年のスポーツを通じた健康維持に重点を置き、必要な連携方策を具体化するとともに、中高年向けのコーディネーショントレーニングについても検討を進めます。

#### ◆健康増進に向けた民間組織との連携策の検討

- ・行政と市民が連携して健康長寿のまちづくりに取り組んでいくため、健康づくりに取り組む市内の民間組織のニーズや意向を把握し、行政との連携の方策について検討を進めます。
- ・市民向けの健康づくりへの意識啓発につながるスポーツや身体活動に関する講演会や学習会等を開催します。

【参考4】健康づくりのための身体活動基準 —健康日本21に基づいた基準—

健康増進法に基づき、厚生労働省では運動も含めた「健康づくりのための身体活動の量や内容についての望ましい基準」を医学的知見も蓄積しながらつくりあげ、2013年にとりまとめています。運動以外の活動も「量」として示しているため、日常的にも活用が可能な内容となっています。

### 健康づくりのための身体活動基準2013(概要)

ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動(生活活動・運動)を推進することで健康日本21(第二次)の推進に資するよう、「健康づくりのための運動基準2006」を改定し、「健康づくりのための身体活動基準2013」を策定した。

健康日本21(H12~24年度)

【主な目標】  
○日常生活における歩数の増加  
○運動習慣者の増加

健康日本21(第二次)

【主な目標】  
○日常生活における歩数の増加  
○運動習慣者の割合の増加  
○住民が運動しやすいまちづくり・健康増進に取り組む自治体の増加

#### 健康づくりのための身体活動基準2013

- 身体活動(=生活活動<sup>(1)</sup>+運動<sup>(2)</sup>)全体に着目することの重要性から、「運動基準」から「身体活動基準」に名称を改めた。
- 身体活動量の増加でリスクを低減できるものとして、従来の糖尿病・循環器疾患等に加え、がんやロコモティブシンドローム・認知症が食まれることを明確化(システマティックレビューの対象疾患に追加した)。
- 子どもから高齢者までの基準を検討し、科学的根拠のあるものについて基準を設定した。
- 保健指導で運動指導を安全に推進するために具体的な判断・対応の手順を示した。
- 身体活動を推進するための社会環境整備を重視し、まちづくりや職場づくりにおける保健事業の活用例を紹介した。

血糖・血圧・脂質に関する状況	身体活動(=生活活動+運動)	運動	体力(うち全身持久力)
健康結果が基準範囲内	<p>65歳以上</p> <p>強度を問わず、身体活動を毎日40分(=10メッツ・時/週)</p> <p>18~64歳</p> <p>3メッツ以上の強度の身体活動を(歩行又はそれと同等以上)毎日60分(=23メッツ・時/週)</p> <p>18歳未満</p> <p>【参考】幼児期運動指針「毎日40分以上、楽しく体を動かすことが望ましい」</p>	<p>—</p> <p>3メッツ以上の強度の運動を(息が弾みずかか程度)毎週60分(=4メッツ・時/週)</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>性・年代別に示した強度での運動を約3分継続可</p> <p>—</p>
血糖・血圧・脂質のいずれかが保健指導レベルの者	医療機関にかかっておらず、「身体活動のリスクに関するスクリーニングシート」でリスクがないことを確認できれば、対象者が運動開始前・実施中に自ら体調確認ができるよう支援した上で、保健指導の一環としての運動指導を積極的に行う。		
リスク重複者又は受診勧奨者	生活習慣病患者が積極的に運動をする際には、安全面での配慮が特に重要になるので、かかりつけの医師に相談する。		

○健康づくりのための身体活動指針は、国民向けパンフレット「アクティブガイド」として、自治体等でカスタマイズして配布できるよう作成。

#### 生活活動のメッツ表

メッツ	3メッツ以上の生活活動の例
3.0	普通歩行(平地、67m/分、犬を連れて)、電動アシスト付き自転車に乗る、家財道具の片付け、子どもの世話(立位)、台所の手伝い、大工仕事、梱包、ギター演奏(立位)
3.3	カーペット掃き、フロア掃き、掃除機、電気関係の仕事:配線工事、身体の動きを伴うスポーツ観戦
3.5	歩行(平地、75~85m/分、ほとほとの速さ、散歩など)、楽に自転車に乗る(8.9km/時)、階段を下りる、軽い荷物運び、車の荷物の積み下ろし、荷づくり、モップがけ、床磨き、風呂掃除、庭の草むしり、子どもと遊ぶ(歩く/走る、中強度)、車椅子を押す、釣り(全般)、スクーター(原付)・オートバイの運転
4.0	自転車に乗る(=16km/時未満、通勤)、階段を上る(ゆっくり)、動物と遊ぶ(歩く/走る、中強度)、高齢者や障がい者の介護(身支度、風呂、ベッドの乗り降り)、屋根の雪下ろし
4.3	やや速歩(平地、やや速めに=93m/分)、苗木の植栽、農作業(家畜に餌を与える)
4.5	耕作、家の修繕
5.0	かなり速歩(平地、速く=107m/分)、動物と遊ぶ(歩く/走る、活発に)
5.5	シャベルで土や泥をすくう
5.8	子どもと遊ぶ(歩く/走る、活発に)、家具・家財道具の移動・運搬
6.0	スコップで雪かきをする
7.8	農作業(干し草をまとめる、納屋の掃除)
8.0	運搬(重い荷物)
8.3	荷物を上の階へ運ぶ
8.8	階段を上る(速く)

メッツ	3メッツ未満の生活活動の例
1.8	立位(会話、電話、読書)、血洗い
2.0	ゆっくりした歩行(平地、非常に遅い=53m/分未満、散歩または家の中)、料理や食材の準備(立位、座位)、洗濯、子どもを抱えながら立つ、洗車・ワックスがけ
2.2	子どもと遊ぶ(座位、軽度)
2.3	ガーデニング(コンテナを使用する)、動物の世話、ピアノの演奏
2.5	植物への水やり、子どもの世話、仕立て作業
2.8	ゆっくりした歩行(平地、遅い=53m/分)、子ども・動物と遊ぶ(立位、軽度)

【出典】厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「健康づくりのための運動基準2006改定のためのシステマティックレビュー」(研究代表者:宮地元彦)

#### 運動のメッツ表

メッツ	3メッツ以上の運動の例
3.0	ボウリング、バレーボール、社交ダンス(ワルツ、サンバ、タンゴ)、ピラティス、太極拳
3.5	自転車エルゴメーター(30~50ワット)、自体重を使った軽い筋力トレーニング(軽・中等度)、体操(家で、軽・中等度)、ゴルフ(手引きカートを使って)、カヌー
3.8	全身を使ったテレビゲーム(スポーツ・ダンス)
4.0	卓球、パワーヨガ、ラジオ体操第1
4.3	やや速歩(平地、やや速めに=93m/分)、ゴルフ(クラブを担いで運ぶ)
4.5	テニス(ダブルス)*、水中歩行(中等度)、ラジオ体操第2
4.8	水泳(ゆっくりとした背泳)
5.0	かなり速歩(平地、速く=107m/分)、野球、ソフトボール、サーフィン、パレエ(モダン、ジャズ)
5.3	水泳(ゆっくりとした平泳ぎ)、スキー、アクアビクス
5.5	バドミントン
6.0	ゆっくりとしたジョギング、ウェイトトレーニング(高強度、パワーリフティング、ボディビル)、バスケットボール、水泳(のんびり泳ぐ)
6.5	山を登る(0~4.1kgの荷物を持って)
6.8	自転車エルゴメーター(90~100ワット)
7.0	ジョギング、サッカー、スキー、スケート、ハンドボール*
7.3	エアロビクス、テニス(シングルス)*、山を登る(約4.5~9.0kgの荷物を持って)
8.0	サイクリング(約20km/時)
8.3	ランニング(134m/分)、水泳(クロール、ふつうの速さ、46m/分未満)、ラゲビー*
9.0	ランニング(139m/分)
9.8	ランニング(161m/分)
10.0	水泳(クロール、速い、69m/分)
10.3	武道・武術(柔道、柔術、空手、キックボクシング、テコンドー)
11.0	ランニング(188m/分)、自転車エルゴメーター(161~200ワット)

メッツ	3メッツ未満の運動の例
2.3	ストレッチング、全身を使ったテレビゲーム(バランス運動、ヨガ)
2.5	ヨガ、ビリヤード
2.8	座って行うラジオ体操

【出典】厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「健康づくりのための運動基準2006改定のためのシステマティックレビュー」(研究代表者:宮地元彦)

(厚生労働省ホームページより)

## 基本施策⑧ 総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化

### 【 現状の主な取り組みと課題 】

#### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・総合型地域スポーツクラブ自体の認知度は市民の間でも低い状況にあり、認知度を上げるような取り組みが今まで以上に必要となります。

#### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・現在、総合型地域スポーツクラブは堀金地域の1つのみです。
- ・地理的な特徴を考慮すると、あと2つ程度の設立が望ましいと考えられますが、設立の準備に必要な予算確保のための関係機関等からの助成要件（団体数・人数など）も、以前に比べ大きくなっており、準備の負担が大きく、新規設立が容易でない状況にあります。
- ・このような動向と今後の少子高齢化の進展、人口減少などを見据え、今後の安曇野市の地域をあげたスポーツ推進体制を研究し、構築する必要があります。

### 【 施策の展開 】

#### ◇:既存施策の改善・拡充

#### 目標指標

総合型地域スポーツクラブ参加者数 480 → 1,000 人

#### ◇既存クラブの運営等への支援

- ・既存クラブを有効に活かし、周辺地域の活動団体等との連携などを模索し、クラブへの参加の輪を広げる取り組みを進めます。
- ・既存クラブがより活発な活動を展開できるように、運営の自主自立化に向けた取り組みに対する支援を継続します。
- ・マネージャー養成のため、研修会などへの参加を促し、クラブ運営に必要な人材を育成します。
- ・市民への総合型地域スポーツクラブの認知度を高め、活動内容などを理解してもらうためのパンフレットの制作・配布などの広報活動を進めます。

#### ◇既存のスポーツ推進体制の改善

- ・スポーツ推進に関する人材の情報整理とあわせ、今後の市内をとりまく情勢も勘案し、スポーツ推進委員など、市内のスポーツを先導的に推進していく体制について、改めるべき点を整理するとともにその対策を具体化し、必要に応じて再編や構築を進めます。

## 基本目標3 安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出

障がい者スポーツの推進を通じた絆づくりと、安曇野の良好な環境を舞台に広まりつつあるスポーツイベントのしくみや体制を活かし、スポーツを通じた多様な交流の創出に重点を置きます。

### 基本施策⑨ 障がい者スポーツを広める場と体制づくり

#### 【現状の主な取り組みと課題】

##### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・全国規模の調査報告では、パラリンピックの認知度は98.2%あるにもかかわらず、パラリンピック以外の障がい者スポーツの直接観戦経験のある人は4.7%という結果(※1)や、障がい者のスポーツ参加率は18.2%という結果(※2)が出ています。
- ・市内での障がい者スポーツに関する教室等の参加や関心の程度は、全国規模の調査結果よりも低い状況にあります。国や県の取り組みとの連携も視野に入れて認知度向上のきっかけづくりが必要です。

##### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・平成29年度には、障がい者スポーツ体験会（ボッチャ）を開催しました。
- ・今後の継続に向けては、教室等の運営の際のサポート体制の確立が課題といえます。
- ・リオパラリンピックへの市内居住の出場者への壮行会を行うとともに、大会出場時のパブリックビューイング及び終了後の報告会を開催しました。

※1 日本財団パラリンピック研究会「国内外一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心」報告書

※2 健全者と障がい者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障がい者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)報告書

#### 【施策の展開】

- ◇:既存施策の改善・拡充
- ◆:新規施策

目標指標 障がい者スポーツ教室・イベントの開催数 0→3(回/年)

##### ◇障がい者スポーツの体験の機会と発信の充実

- ・これまでの取り組みの成果を活かし、今後も引き続き、認知度向上に向けて障がい者スポーツに関する体験の機会や、活動成果の発信の機会などを設け、参加や連携のきっかけづくりを進めます。
- ・様々な団体・組織が主催する障がい者スポーツ指導者、ボランティアの養成講座などについて市民向けの情報提供を行い、市民の参加促進を図ります。
- ・また、障がい者のスポーツ活動や利用拠点となる施設等に関する情報提供を充実します。

##### ◆障がい者スポーツの推進体制の構築に向けた基盤づくり

- ・将来的な障がい者スポーツの推進体制の組織化に向け、体験や交流の機会を契機にして、指導者（一例として長野県障がい者スポーツ協会との連携）、協力者、連携先の確保を支援します。

## 基本施策⑩ 豊かな環境を活かしたスポーツ交流

### 【 現状の主な取り組みと課題 】

#### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・平成27年より開催されている信州安曇野ハーフマラソンは、市内でスポーツボランティアが各所で活動できる機会となっており、市民がスポーツを支える形で交流のできる貴重な機会です。
- ・今後もスポーツの機会を活かしたボランティア活動等を通じて、市民同士の絆の向上、交流の促進を図ることは重要です。
- ・また、ボランティア活動に限らず、イベント等の機会を通じて、参加者、市民、来訪者が交流を深めることも重要です。
- ・市民や来訪者が安曇野の美しい景色や環境のなかを走りぬける、自転車で動くスタイルが拡大しつつあります。

#### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・信州安曇野ハーフマラソンに代表されるスポーツ交流イベントを継続し、協力者の拡大により参加者増を目指していく必要があります。
- ・平成28年度には、リオ五輪でカヌースラローム競技アジア初のメダルを獲得した羽根田選手の名前を冠にしたスラローム大会が、安曇野明科の前川で市民団体の主催で開催されました。これと前後して、犀川のカヌーラフティング体験など、夏の水辺スポーツ環境としての価値が再認識されつつあります。
- ・このような動きや自転車利用等の進む状況を、観光産業振興との連携なども視野に入れ、総合的なスポーツによる地域振興につなげていく必要があります。

### 【 施策の展開 】

- ◇: 既存施策の改善・拡充
- ◆: 新規施策

目標指標 環境を活かしたスポーツイベントの開催数 1→5(回/年)

#### ◇スポーツ交流イベントへの参加拡大

- ・既存のイベントへの協力者を増やしたり、新総合体育館や豊かな環境を活かした新たなスポーツイベントの開催に向け関係者との調整を進め、スポーツを通じた交流の裾野の拡大に努めます。

#### ◆自然を活かしたスポーツを通じた交流の拡大

- ・犀川、万水川、前川などを利用したラフティングやカヌー、山岳地形を活かした登山やトレッキング、さらには、サイクルスポーツ、グライダー等のスカイスportsなどの自然体験型スポーツの普及と推進に向け、様々な主体が連携して取り組む体験や交流の機会に対し、必要な支援の充実を図ります。



## 基本施策⑪ 「する」「見る」スポーツを通じた多様な交流の拡大

### 【 現状の主な取り組みと課題 】

#### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・市民アンケート調査の結果では、今後力を入れるべき取り組みとして「幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす」が最上位であり、スポーツを通じた市民や世代間の交流ができる機会を生み出していくことは、今後も重要な視点です。

#### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・ニーズの多様化にあわせて、「する」スポーツだけでなく、高い技術にも触れることのできる「見る」スポーツにも力を入れていく必要があります。
- ・安曇野市では、平成22年度より、市民がスポーツを通して交流を深め、安曇野市としての連帯感を共有するための事業として安曇野市民スポーツ祭を開催しています。6月末の開幕イベントを経て、その後半年間、市内各所にあるスポーツ施設を有効活用して、様々な種目の競技会が開かれています。しかし、8回の運営を経て、広報・周知などの面を中心に改善を要する部分もみられます。
- ・平成32（2020）年度に完成予定の新総合体育館は、様々な世代の市民がスポーツを通じた交流を進めるうえで重要な拠点になると考えられます。

### 【 施策の展開 】

◇：既存施策の改善・拡充

◆：新規施策

目標指標 国内トップレベルの試合等の誘致 0→2(回/年)

#### ◇高い技術に触れる機会の充実

- ・体育協会や各種団体と連携して、より高いレベルの競技大会の開催を支援し、「見る」スポーツの機会の拡充を図ります。
- ・トップ・アスリートと交流する機会の拡充を図ります。

#### ◇安曇野市民スポーツ祭の改善

- ・8年間の実績を踏まえ、その効果と課題を整理し、新総合体育館での開催事も見据えながら、運営方法等の改善を検討します。

#### ◆新総合体育館整備を契機にした市内スポーツイベントの整理・統合・拡充

- ・スポーツを通じた交流をより効果的なものへと導くため、新総合体育館の開館前の段階から市内で開催される大きな大会やイベントの年間スケジュールの整理・統合、拡充等の検討を進めます。

## 基本施策⑫ 東京五輪・長野国体準備を通じた各種交流

### 【 現状の主な取り組みと課題 】

#### ○市民のスポーツとの関わりから

- ・リオパラリンピックでの市内居住の選手の活躍や、市内の前川のコースで開催された羽根田選手のリオ五輪メダル獲得記念大会などを通じ、オリンピックが身近なものと感じられる機会が増えてきました。
- ・国内では2020年の東京オリンピックが、県内では2027年の長野国体が開催される見込みであり、このような大規模なスポーツイベントを契機に人々の交流を深めることが期待されます。

#### ○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・安曇野市では2020年の東京オリンピックに向け、ホストタウンとして名乗りを上げ、北信越国体でも利用されている龍門淵公園内の前川カヌースラロームコースを活用し、カヌー競技の普及と国際交流を推進することとしています。
- ・このような取り組みを市民や関係者が連携して実践できる体制づくりが必要です。またこうした機運を、今後の長野国体や新総合体育館も視野に入れ、様々な交流の促進につなげていくことが重要です。

### 【 施策の展開 】

◇:既存施策の改善・拡充

目標指標 東京五輪・長野国体関連行事・催事への参加者延人数 2,000人

#### ◇東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンの取り組みの推進

- ・前川のカヌースラロームコースを活用し、オリンピック出場選手等のデモンストレーションや、カヌー教室等を開催しながら、下図に示すイメージの国際交流を展開します。



(首相官邸ホームページより)

図19 安曇野市交流計画の概要

# 第5章

## 計画の推進及び進捗管理

### 1. 計画の推進

本計画の推進にあたっては、行政はもとより、市民やスポーツ関係団体・関係機関などの「協働」により実践していくことが必要です。

このため、本計画について積極的に広報し、周知を図ります。また、市民のスポーツニーズや施策の展開状況を把握・評価し、事業実施に反映することにより、合理的な計画推進を図ります。

### 2. 数値目標による管理

本計画を推進するため、基本施策ごとに数値目標を設定し、計画の成果を定期的に確認しながら、必要な取り組みを進めます。

表6 目標指標等一覧

基本目標	No.	基本施策	指標(単位)	現状	目標値
				H28	H30 (2027)
市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進	①	子どものスポーツの推進	運動好きの割合(%) ※小学5年生、中学2年生の男女平均	60.6	70.0
	②	「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進	軽スポーツ及び競技スポーツ体験会の教室の参加者数(人/年)	76	200
	③	ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり	20～40代のスポーツ教室等参加率(%) 親子で参加するスポーツ教室の参加者(人/年)	25.7 434	40.0 600
	④	効果的なスポーツ情報サービス	広報誌、ホームページ、ツイッター等での情報発信回数(回/年)	47	60
	⑤	公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善	施設利用者アンケートによる満足度(%)	63.8	70.0
「する」スポーツを支える体制・しくみの充実	⑥	地域で支えるスポーツ推進体制の基盤づくり	スポーツ指導者講習会等の開催数(回/年) スポーツ指導者連絡協議会(仮称)の設立(組織数)	1 0	3 1
	⑦	健康増進に関わる多様な主体の連携強化	健康づくりに関する庁内連絡会議(仮称)の開催(回/年)	0	3
	⑧	総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化	総合型地域スポーツクラブ参加者数(人)	480	1,000
安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出	⑨	障がい者スポーツを広める場と体制づくり	障がい者スポーツ教室・イベント開催数(回/年)	0	3
	⑩	豊かな環境を活かしたスポーツ交流	環境を活かしたスポーツイベントの開催数(回/年)	1	5
	⑪	「する」「見る」スポーツを通じた多様な交流の拡大	国内トップレベルの試合等の誘致(回/年)	0	2
	⑫	東京五輪・長野国体準備を通じた各種交流	関連行事・催事への参加者(延人数)	—	2,000
参考値			成人の週1回以上のスポーツ実施率(%)	32.6	50.0

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査

### 3. 計画の進捗管理

進捗状況については、スポーツ関係団体や学校などの代表、学識経験者などで構成する「安曇野市スポーツ推進審議会」において、計画の評価及び見直しについての審議をいただき、必要な場合には計画の見直しを行ってまいります。



# 資料編

- 資料1 策定組織
- 資料2 策定経過
- 資料3 安曇野市社会体育施設一覧
- 資料4 市民のスポーツ・体力づくりに  
関するアンケート調査結果

## 資料1 策定組織

### 第2次安曇野市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 この要綱は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条の規定に基づき、第2次安曇野市スポーツ推進計画（以下「計画」という。）を策定するため、第2次安曇野市スポーツ推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、計画策定に関する事務を所掌する。

(組織)

第3条 委員会は、20人以内の委員をもって組織し、次に掲げる者の中から教育委員会が委嘱する。

- (1) スポーツ団体の代表者
- (2) 公募により選考された市民
- (3) 学識経験者
- (4) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に規定する事務が終了するまでとする。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

- 2 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会長は、特に必要があると認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 計画の策定に関する研究、検討及び計画素案の作成を行うため、専門部会を置くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会教育部生涯学習課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮って別に定める。

附 則

(施行期日等)

- 1 この告示は、平成28年12月1日から施行する。
- 2 この告示は、平成30年3月31日限り、その効力を失う。

第2次安曇野市スポーツ推進計画策定委員名簿

任期：平成29年1月31日～平成30年3月30日

	役職名	氏名	所属
1	会長	古澤 栄一	学識経験者
2	副会長	加々美 浩一	安曇野市スポーツ少年団
3	委員	古屋 真弓	安曇野市体育協会体育館使用団体代表
4	委員	小池 法誉	安曇野市体育協会テニスコート使用団体代表
5	委員	二木 むつみ	安曇野市体育協会武道場使用団体代表
6	委員	鈴木 尚登	安曇野市体育協会武道場使用団体代表
7	委員	湯本 度	安曇野市体育協会グラウンド使用団体代表
8	委員	内田 信一	安曇野市体育協会グラウンド使用団体代表
9	委員	古川 節雄	特定非営利活動法人安曇野市体育協会
10	委員	太田 哲旦	安曇野市スポーツ少年団
11	委員	丸山 義春	安曇野市スポーツ推進委員会
12	委員	布山 まゆみ	安曇野市スポーツ推進委員会
13	委員	宮澤 郁子	総合型スポーツクラブ スポネット常念
14	委員	清水 和雄	公募
15	委員	新井 喜代加	学識経験者
16	委員	古幡 栄一	安曇野市小中学校校長会
17	委員	一志 和恵	安曇野市老人クラブ連合会
18	委員	矢野 勤	安曇野市身体障害者福祉協会

## 資料2 策定経過

### 1. 策定委員会

会議名	開催日時		開催場所	内容
第1回策定委員会	平成29年1月31日	19:00～20:50	本庁舎3階 共用会議室306	策定スケジュール・市民アンケートの検討
第2回策定委員会	平成29年4月28日	19:00～20:45	本庁舎3階 共用会議室305	アンケート調査結果
第3回策定委員会	平成29年6月27日	19:00～21:00	本庁舎3階 共用会議室306	スポーツ推進の現状と課題
第4回策定委員会	平成29年7月25日	19:00～21:00	本庁舎3階 共用会議室306	スポーツ推進の課題と方策(ワークショップ)
第5回策定委員会	平成29年9月26日	19:00～21:00	本庁舎3階 共用会議室306	スポーツ推進の基本方針
第6回策定委員会	平成29年11月7日	19:00～20:30	本庁舎3階 共用会議室306	計画書(素案)の検討
第7回策定委員会	平成30年1月26日	19:00～20:30	本庁舎3階 共用会議室306	計画の最終案の検討

### 2. 庁内会議

会議名	開催日時		開催場所	内容
第1回庁内プロジェクトチーム会議	平成29年1月26日	9:30～10:15	本庁舎3階 共用会議室305	策定スケジュール・市民アンケートの検討
第2回庁内プロジェクトチーム会議	平成29年4月20日	9:35～10:30	本庁舎3階 共用会議室301	アンケート調査結果
第3回庁内プロジェクトチーム会議	平成29年6月21日	9:05～10:20	本庁舎3階 共用会議室306	スポーツ推進の現状と課題
第4回庁内プロジェクトチーム会議	平成29年9月20日	9:05～10:00	本庁舎3階 共用会議室306	スポーツ推進の基本方針
第5回庁内プロジェクトチーム会議	平成29年10月26日	9:00～9:40	本庁舎3階 共用会議室307	計画書(素々案)の検討
第6回庁内プロジェクトチーム会議	平成30年1月12日	9:00～9:40	本庁舎3階 共用会議室306	計画書(案)の検討

### 3. パブリックコメント募集

実施時期	方法	概要	対応
平成29年12月5日～ 平成30年1月6日	市役所、市ホームページ、公民館等で計画案、検討過程を公表し意見を募集。	①コーディネーショントレーニングは対象年齢を問わず推進していくべきでは。 ②若年層だけでなく各年代に向けての取り組み内容を表記すべきでは。 ③指導者育成をもっと強調しても良いのでは。	①については、26ページに中高年向けの対応を記載。 ②、③については、ご提案として参考とする。

### 資料3 安曇野市社会体育施設一覧

区分	施設名	地域
体育館	豊科南社会体育館	豊科
	豊科勤労者総合スポーツ施設体育館	豊科
	穂高総合体育館	穂高
	牧体育館	穂高
	三郷体育館	三郷
	三郷文化公園体育館	三郷
	堀金総合体育館	堀金
	明科体育館	明科
屋内運動場	堀金多目的屋内運動場（常念ドーム）	堀金
運動広場	市営県民豊科運動広場	豊科
	梓橋運動広場	豊科
	高家スポーツ広場	豊科
	高家公園グラウンド	豊科
	市営西穂高運動場	穂高
	市営北穂高運動場	穂高
	市営有明運動場	穂高
	三郷競技場	三郷
	三郷文化公園グラウンド	三郷
	市営堀金総合運動場	堀金
	市営明科農村広場	明科
	龍門淵公園運動広場	明科
	御宝田水のふるさと公園多目的グラウンド	明科
	球技場	市営牧運動場
庭球場	豊科勤労者総合スポーツ施設テニスコート	豊科
	豊科南部総合公園テニスコート	豊科
	穂高総合体育館テニスコート	穂高
	三郷文化公園テニスコート	三郷
	市営堀金総合運動場テニスコート	堀金
	龍門淵公園テニスコート	明科
マレットゴルフ場	豊科水辺公園マレットゴルフ場	豊科
	豊科水辺マレットノース18	豊科
	豊科南部総合公園いなほマレットゴルフ場	豊科
	権現宮マレットゴルフ場	穂高
	穂高立足マレットゴルフ場	穂高
	高瀬川河川内緑地マレットゴルフ場	穂高
	三郷黒沢マレットゴルフ場	三郷
	御宝田水のふるさと公園マレットゴルフ場	明科
ゲートボール場	豊科屋内ゲートボール場	豊科
	龍門淵公園ゲートボール場	明科
柔剣道場	豊科武道館柔道場・剣道場	豊科
	穂高総合体育館柔剣道場	穂高
	三郷文化公園体育館柔道場・剣道場	三郷
	堀金総合体育館柔道場・剣道場	堀金
	明科体育館柔道場・剣道場	明科
弓道場	豊科弓道場	豊科
アーチェリー場	高家スポーツ広場アーチェリー場	豊科
プール	穂高プール	穂高
学校開放施設	各小中学校体育館、校庭	全地域
その他	前川カヌーコース	明科

## 資料4 市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果

### (1) 調査の目的

本調査は、スポーツに対する市民の皆さんの関心や常日頃の取り組みの状況、今後の取り組みに対する意向等を把握するために実施しました。

### (2) 調査方法および調査結果概要

調査実施期間：平成29年2月10日(金)～2月28日(火)

調査対象：安曇野市在住の中学生以上の市民2,000人（無作為抽出（層化抽出）による）

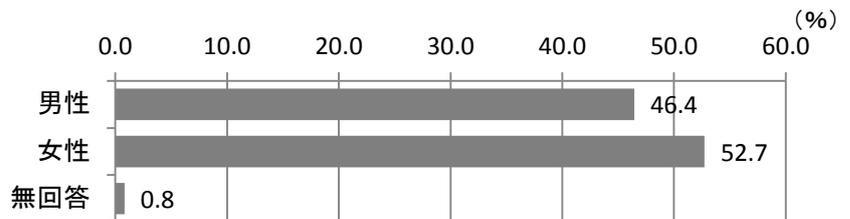
調査方法：郵送により配布・回収

回収数：842通（回収率42.1%）

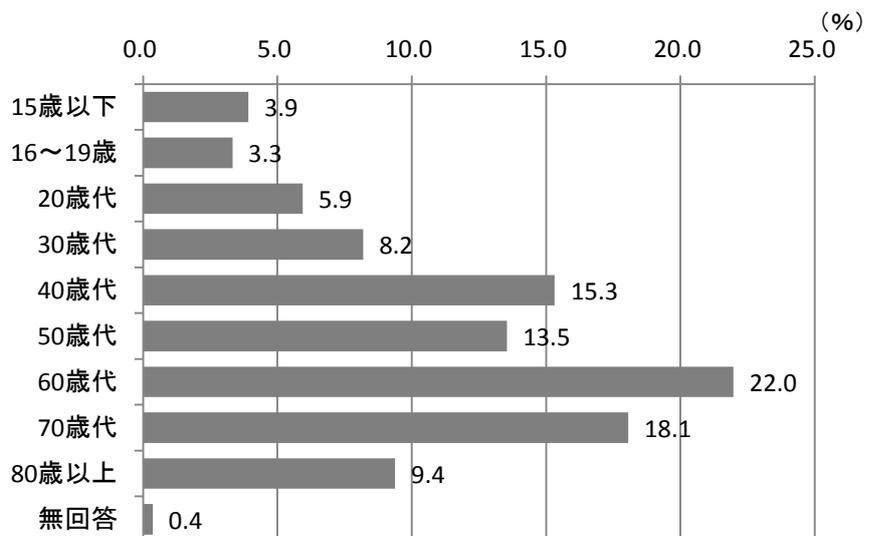
なお、本調査は、平成21年度の「安曇野市スポーツ振興計画」策定時に実施した「市民の体育・スポーツに関するアンケート調査」と同じ設問を基本とし、本調査として新たに設問を追加して実施しました。

## A. あなたご自身のことについておうかがいします

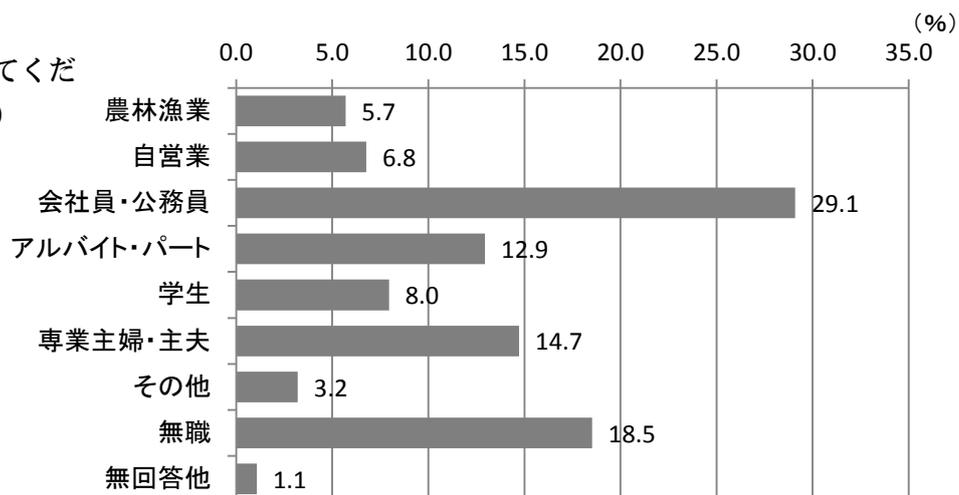
問1 あなたの性別を教えてください。（いずれか1つに○）



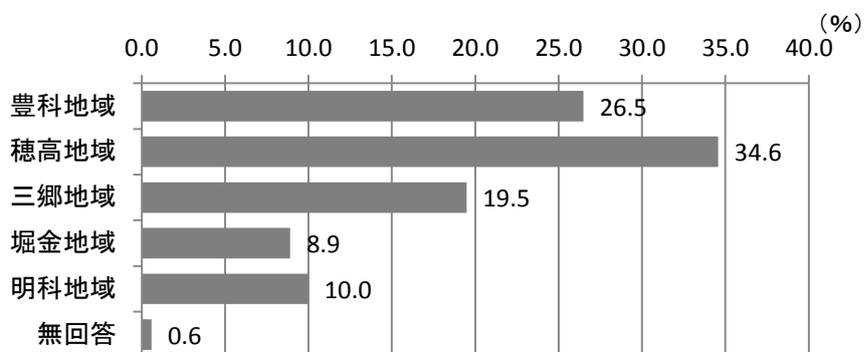
問2 あなたの年齢を教えてください。（いずれか1つに○）



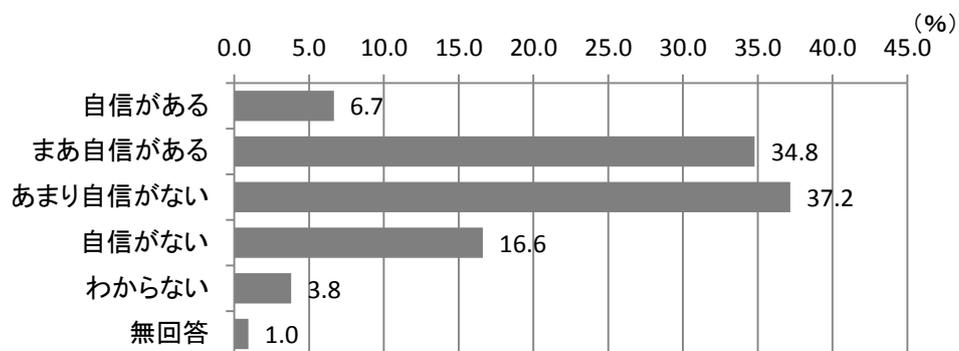
問3 あなたの職業を教えてください。(いずれか1つに○)



問4 あなたのお住まいの地域はどちらですか？(いずれか1つに○)

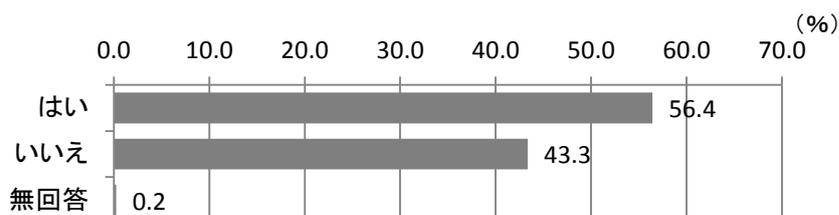


問5 あなた自身の体力についてどう感じていますか？(いずれか1つに○)



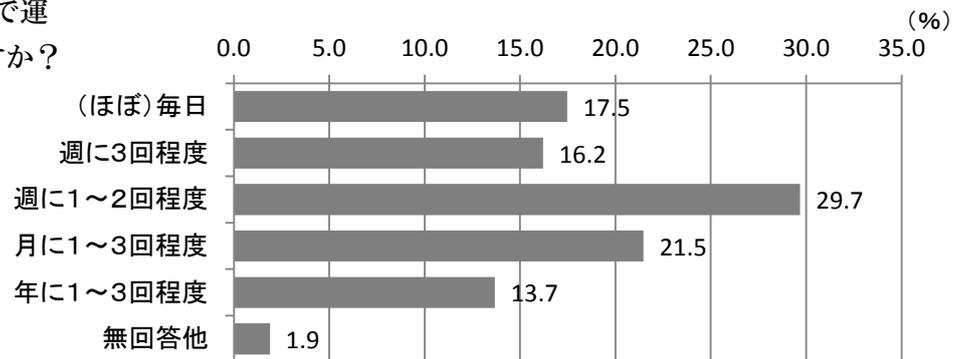
## B. 現在のスポーツ活動状況についておうかがいします

問6 あなたはこの1年間に、運動・スポーツを行いましたか？(いずれか1つに○)

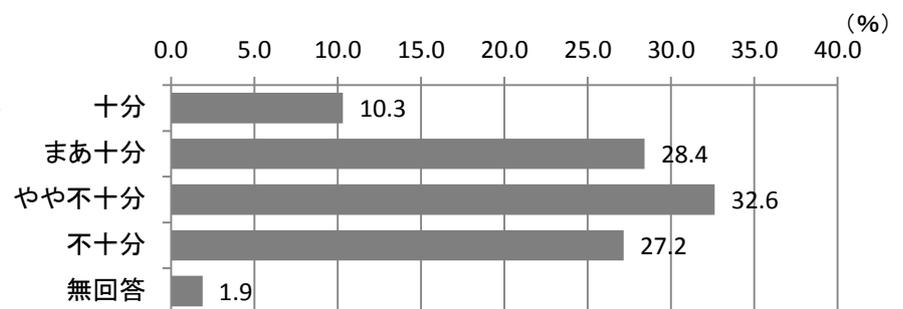


問6で「はい」とお答えの方のみにおうかがいします。以下の問6-①～⑥までの6問にご回答下さい。

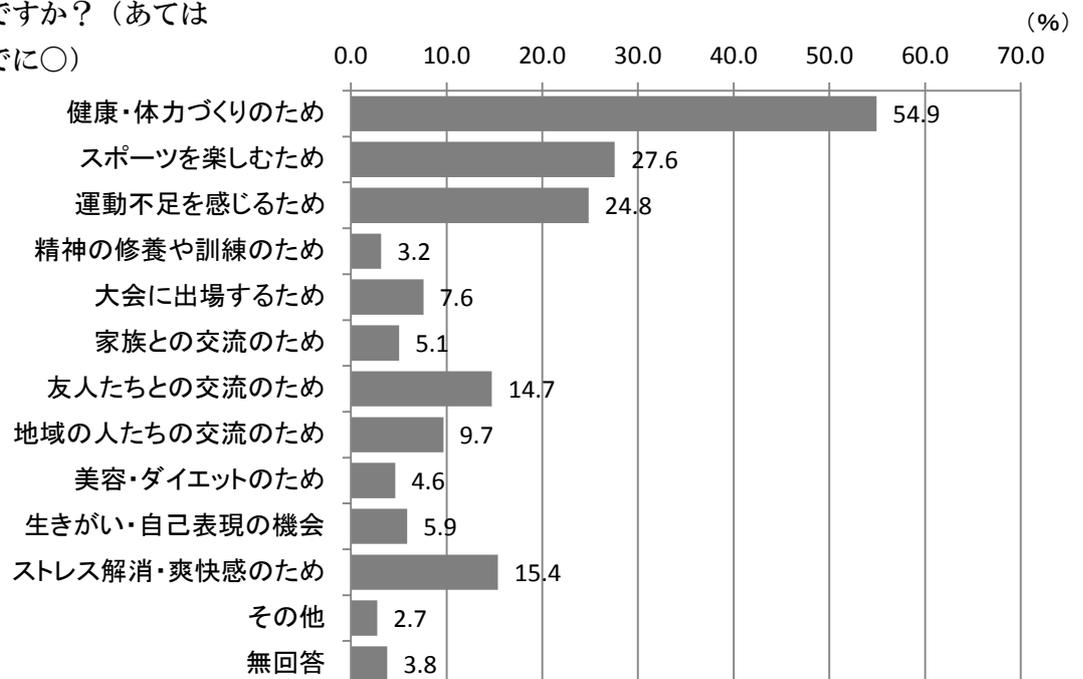
問6-① どの程度の頻度で運動・スポーツをしていますか？  
(いずれか1つに○)



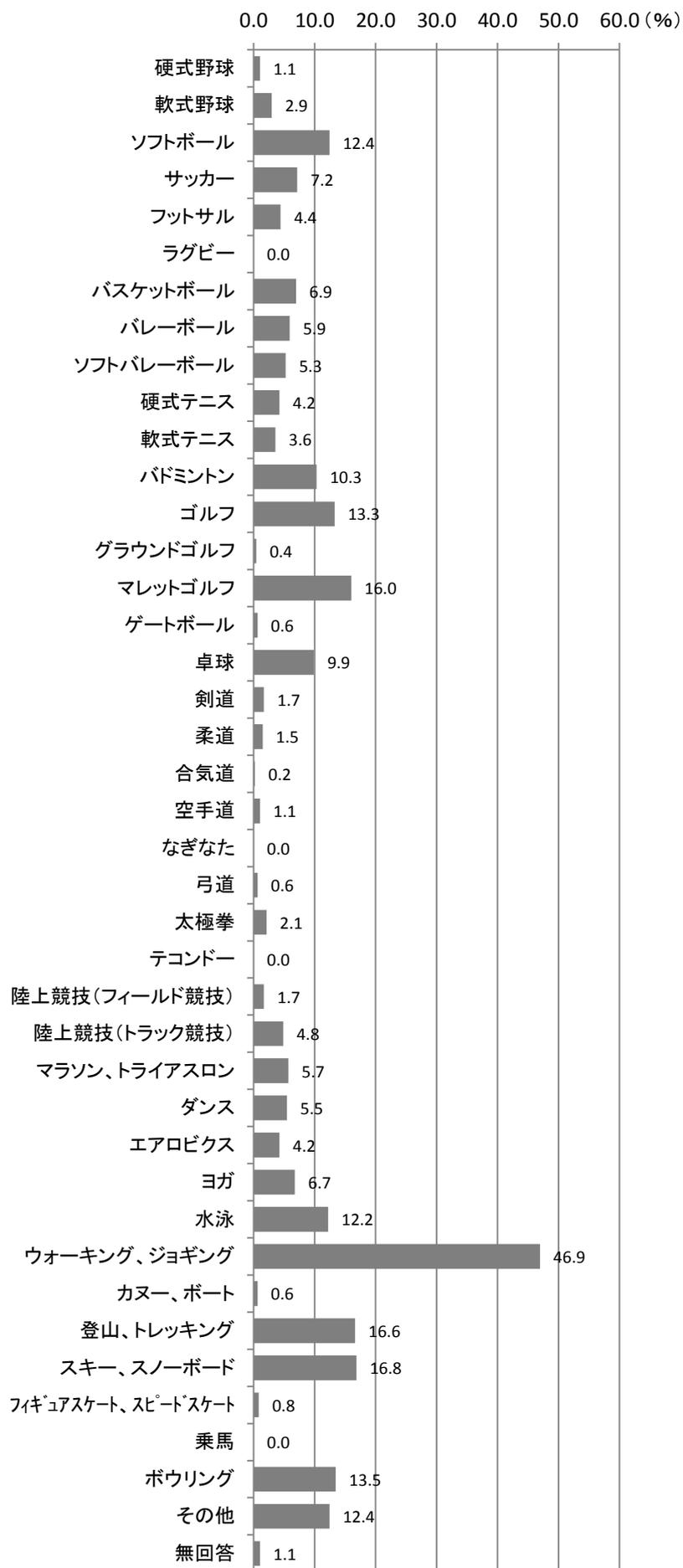
問6-② あなたの生活の中で、運動・スポーツに費やす時間は十分とお考えですか？ (いずれか1つに○)



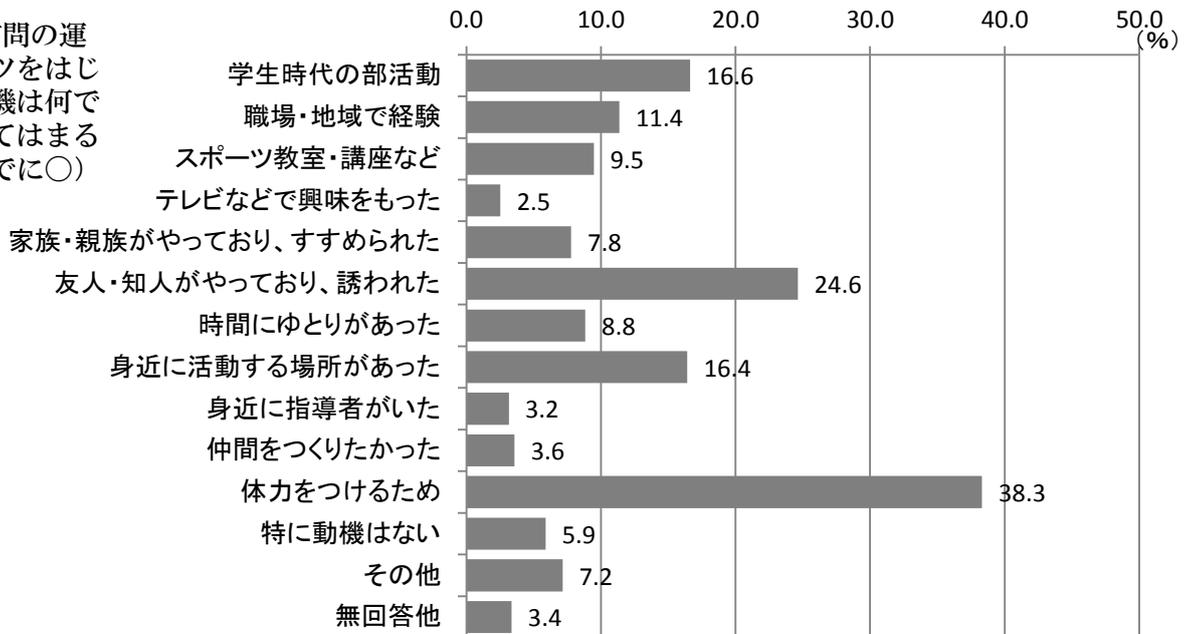
問6-③ あなたが運動・スポーツを行う目的は何ですか？ (あてはまるもの2つまでに○)



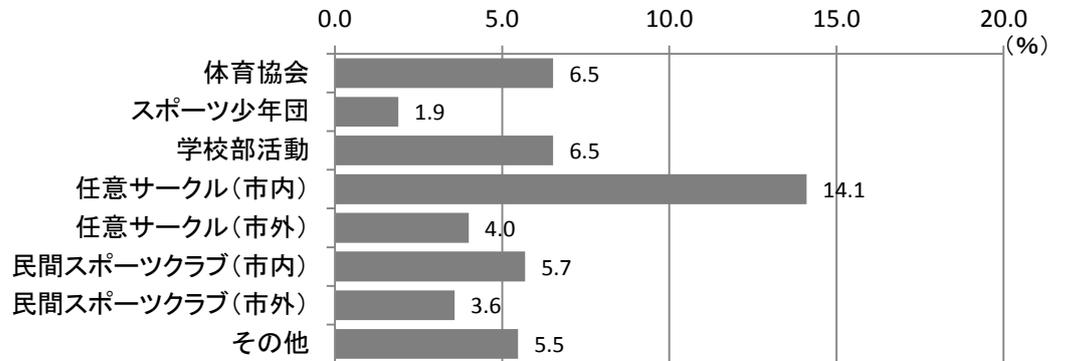
問6-④ この1年間にどんな運動・スポーツをしましたか？（あてはまるものすべてに○）



問6-⑤ 前問の運動・スポーツをはじめた主な動機は何ですか？（あてはまるもの2つまでに○）

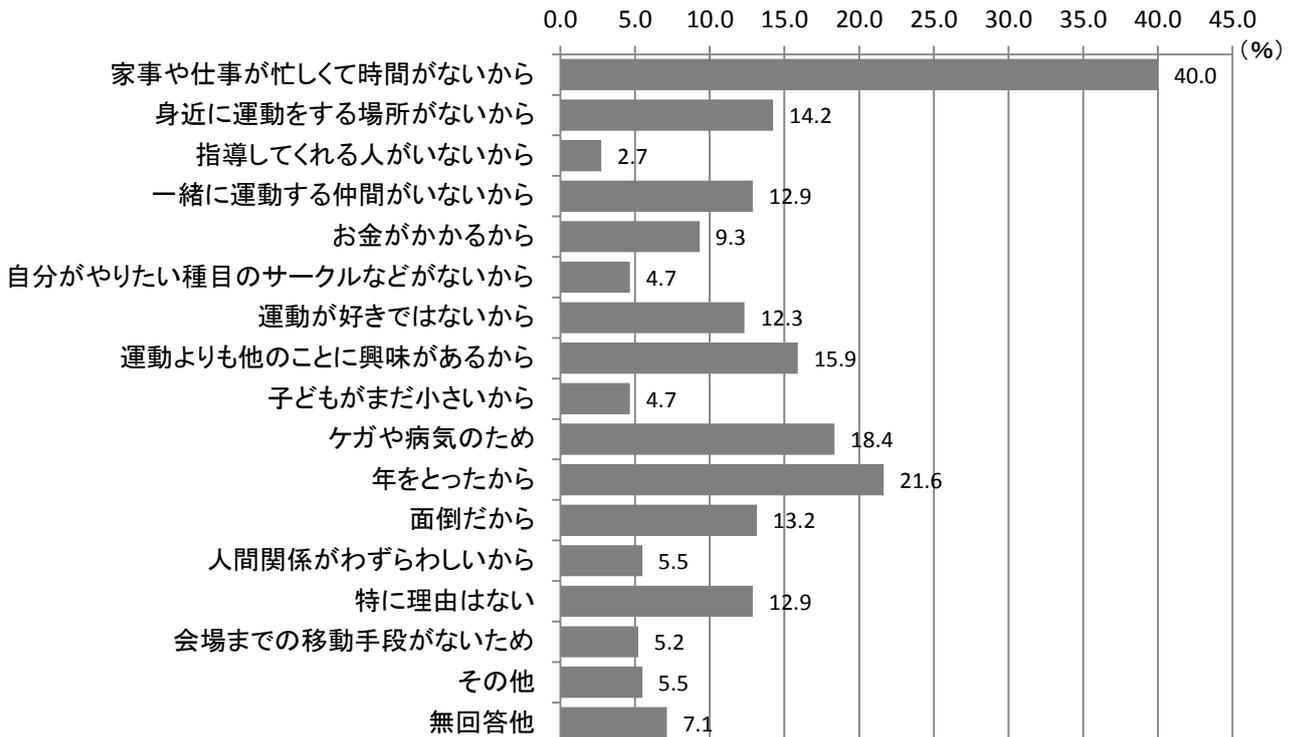


問6-⑥ クラブ・サークルなどのスポーツ団体に所属していますか？（あてはまるものすべてに○）



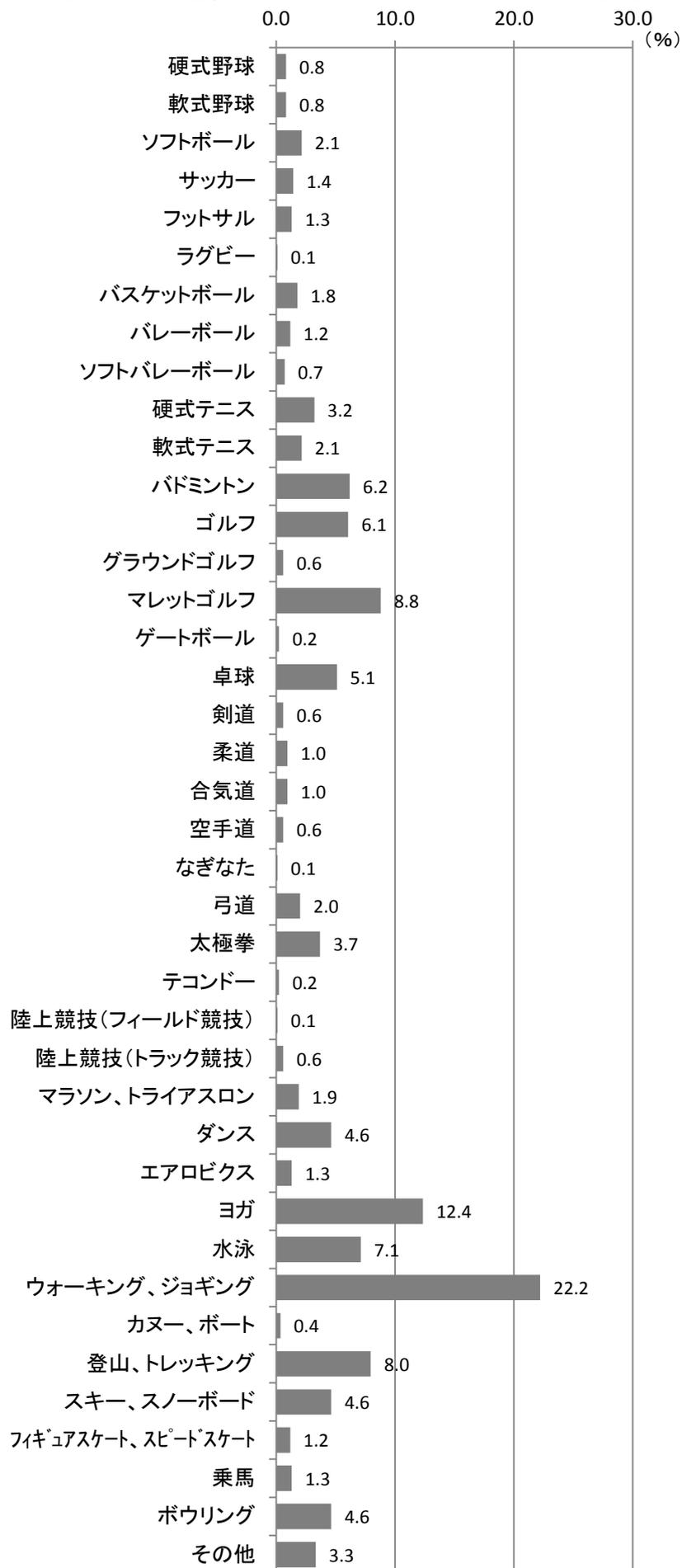
前ページ問6で「いいえ」とお答えの方のみにおうかがいします。

問6-⑦ あなたが運動・スポーツを行わない主な理由は何ですか？（あてはまるもの3つまでに○）



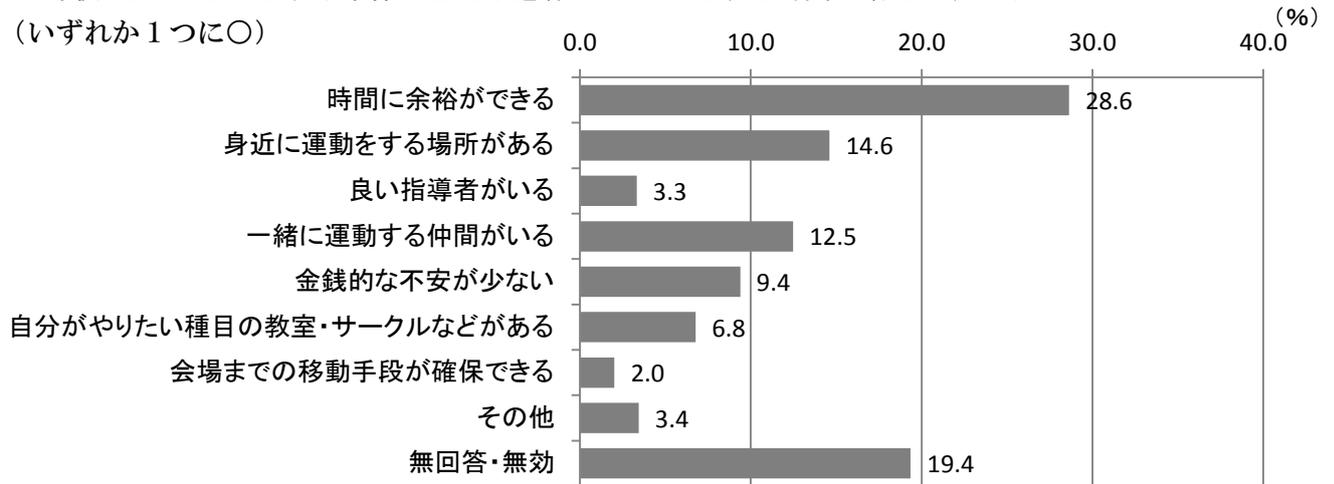
### C. 今後の運動・スポーツ活動についておうかがいします

問7 あなたが、今後やりたい運動・スポーツは何ですか？（あてはまるもの2つまでに○）



問8 今後、とくにどのような条件が整えば運動・スポーツをする時間が増えますか？

(いずれか1つに○)



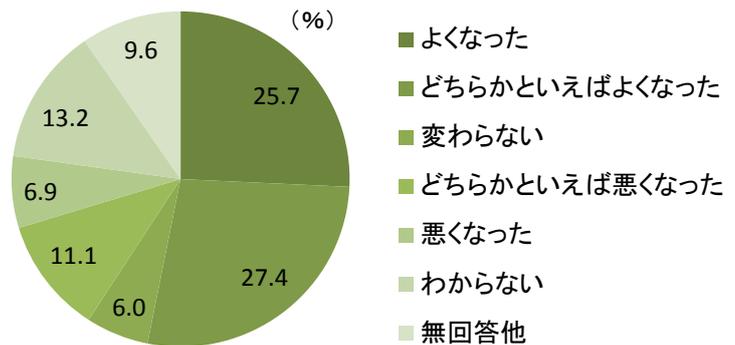
#### D. 子どもたちのスポーツや体力づくりについておうかがいします

問9 20歳以上の方におうかがいします

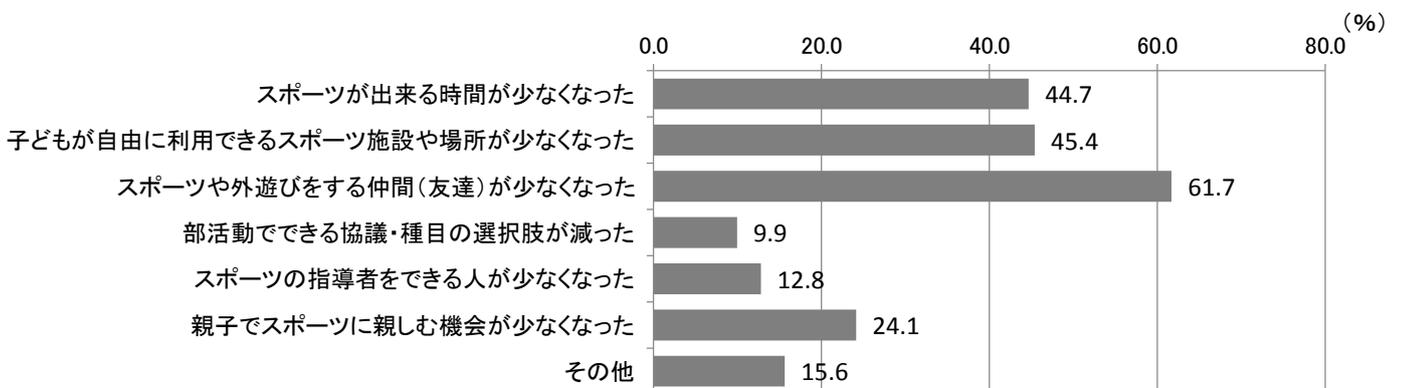
(問10も同様です)。

あなたは、ご自身の子どもの頃と比較して、今の子どものスポーツを取り巻く環境はどのようになったと感じますか？

(いずれか1つに○)

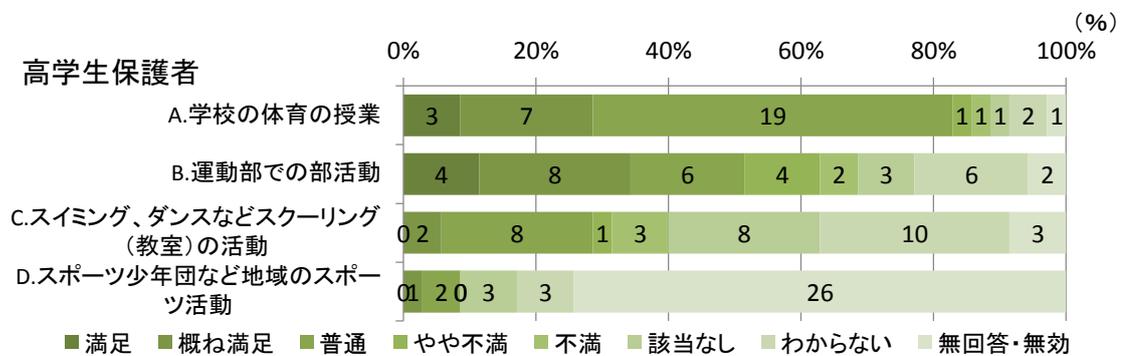
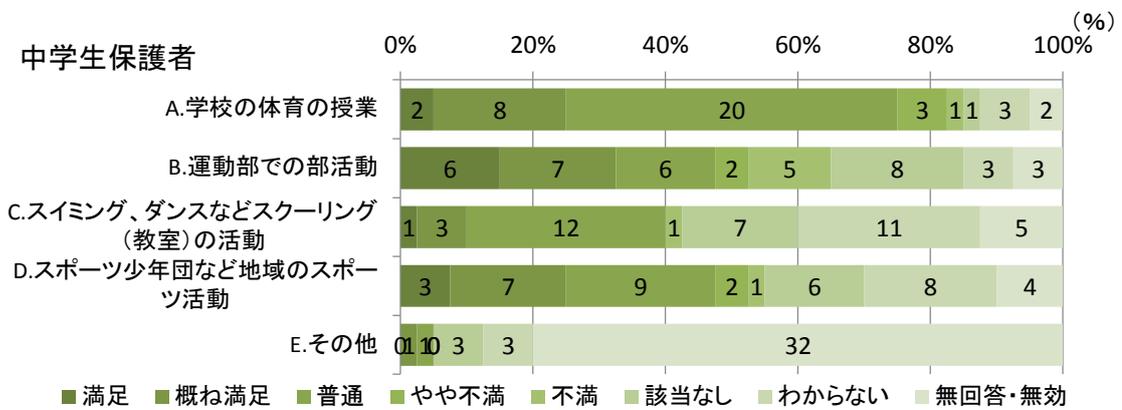
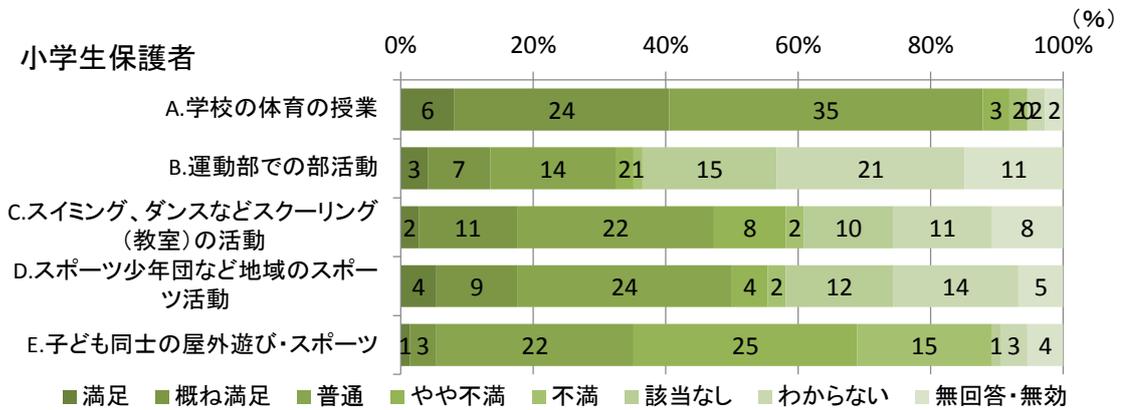


問10 問9で「4. どちらかといえば悪くなった」、「5. 悪くなった」と答えた方におうかがいします。それはどのようなところですか？(あてはまるものすべてに○)



問11 小学校～高校生までの保護者の方におうかがいします。

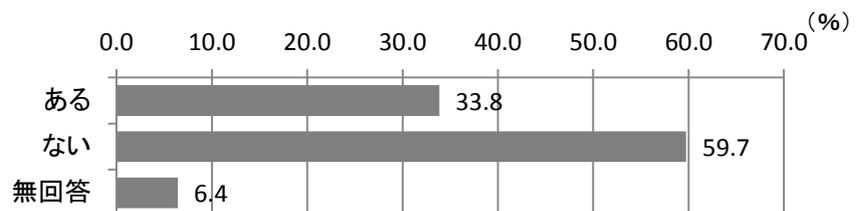
学校での体力づくりやスポーツに関する指導や取り組み等について、どの程度満足されていますか？（項目別にいずれか1つに○）



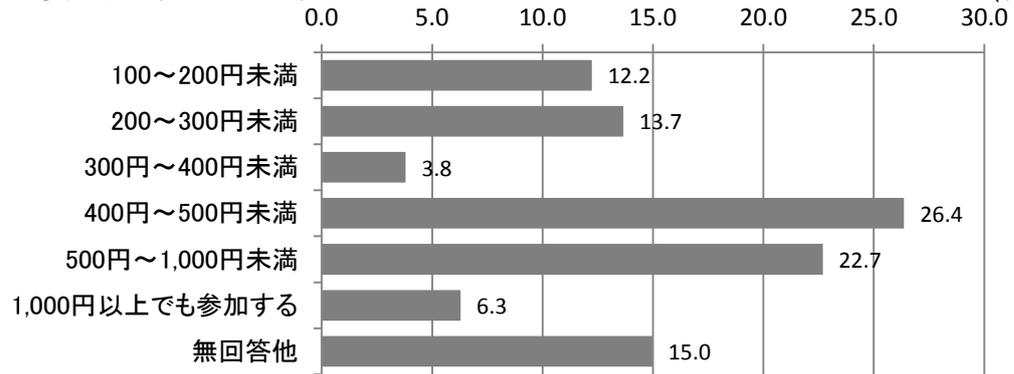
E. 市が行うスポーツイベント(運動会、球技大会など)・教室についておうかがいします

問12 これまでに市内で開催されたスポーツイベント・教室に参加したことがありますか？

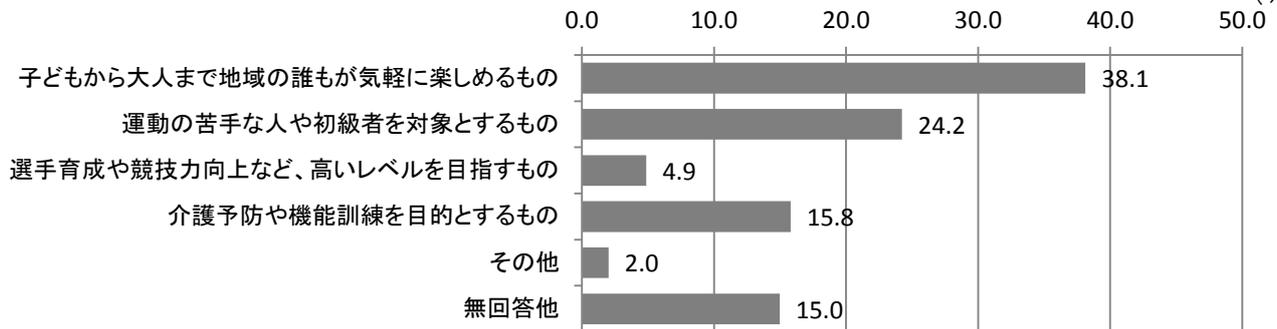
(いずれか1つに○)



問13 市が行うスポーツイベントや教室の参加のため、1回（1日）にあなたはどのくらい参加費（保険料含む）であれば参加しますか？（いずれか1つに○）

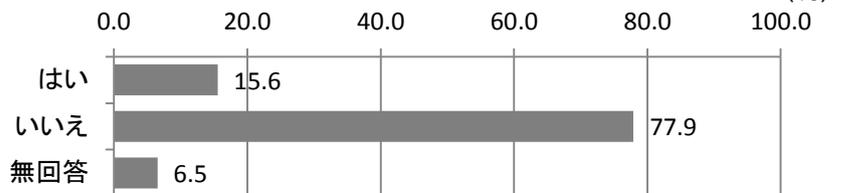


問14 どのようなスポーツイベント、教室を望みますか？（いずれか1つに○）



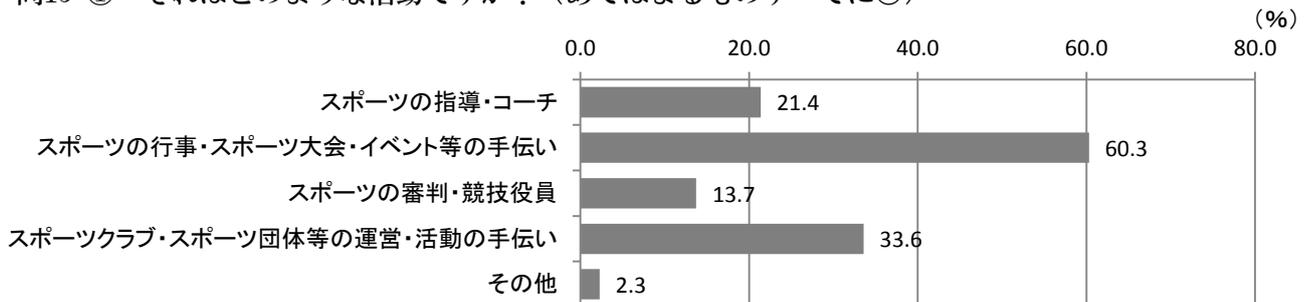
**F. スポーツに関するボランティア活動についておうかがいします**

問15 あなたはスポーツに関わるボランティア活動（大会運営協力、スポーツ指導等）を行いたいですか？（いずれか1つに○）



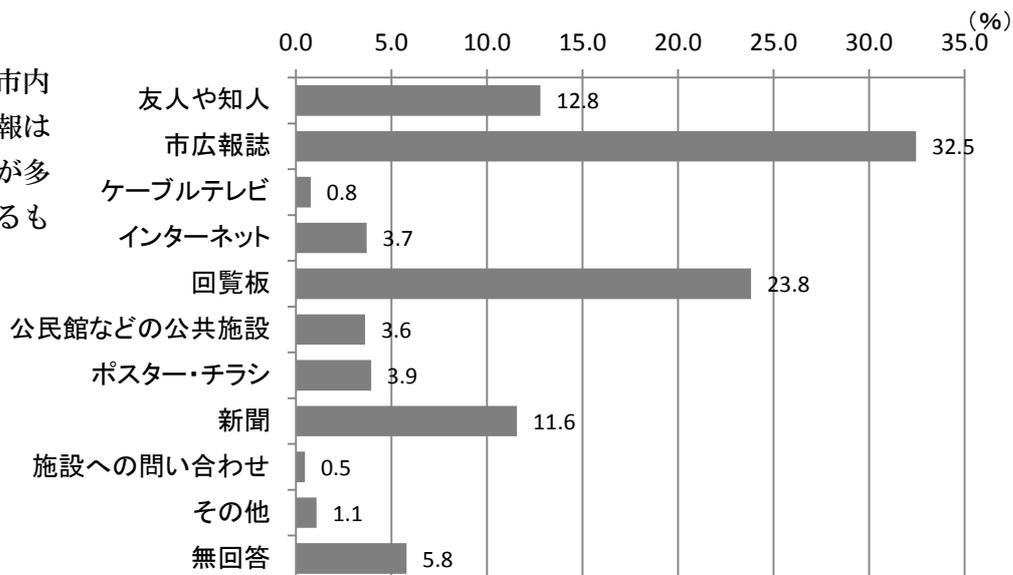
**「はい」とお答えの方のみにおうかがいします。**

問15-① それはどのような活動ですか？（あてはまるものすべてに○）

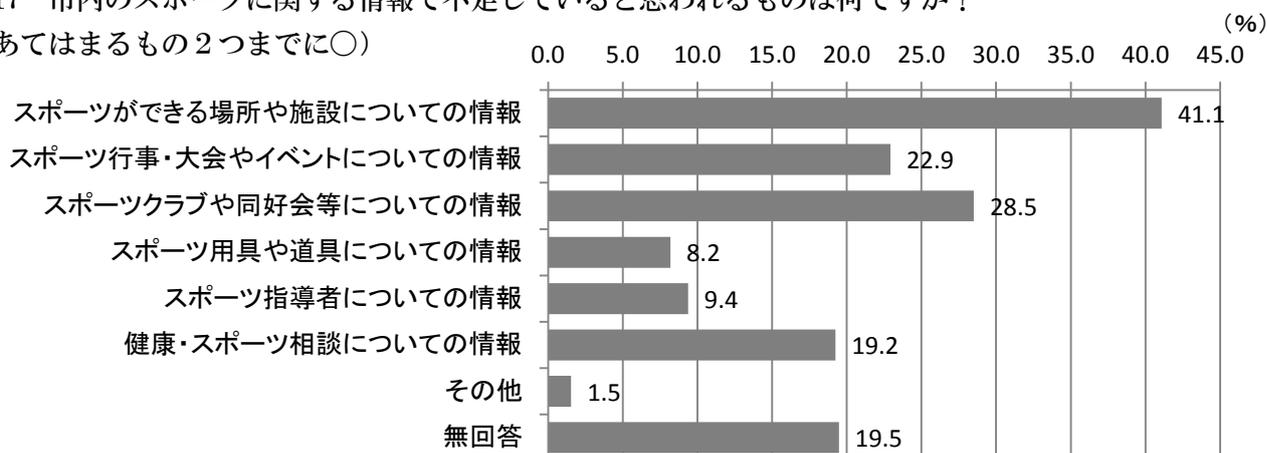


## G. スポーツに関する情報についておうかがいします

問16 あなたは普段、市内のスポーツに関する情報は主にどこから得ることが多いですか？（あてはまるもの2つまでに○）

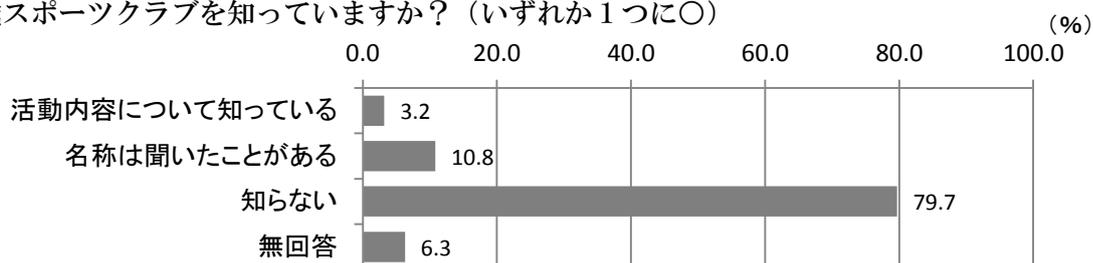


問17 市内のスポーツに関する情報で不足していると思われるものは何ですか？（あてはまるもの2つまでに○）

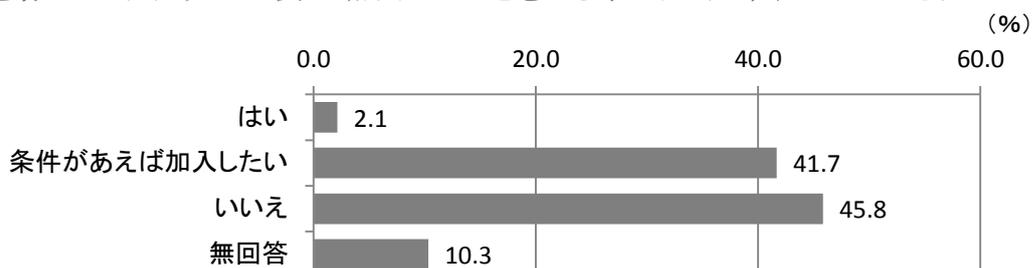


## H. 総合型地域スポーツクラブについておうかがいします

問18 総合型地域スポーツクラブを知っていますか？（いずれか1つに○）

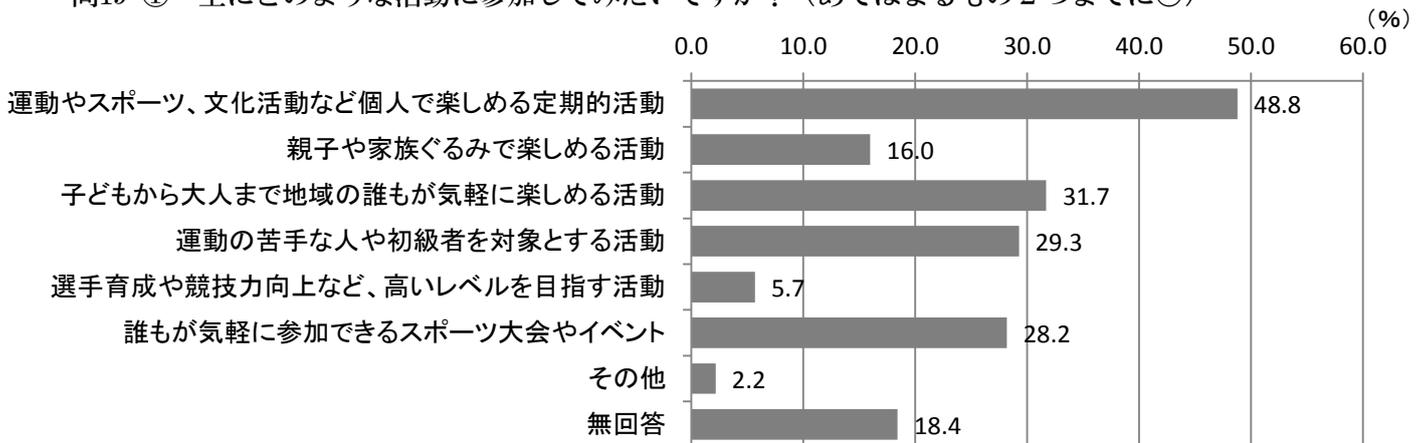


問19 身近に総合型地域スポーツクラブがあれば加入したいと思いますか。（いずれか1つに○）

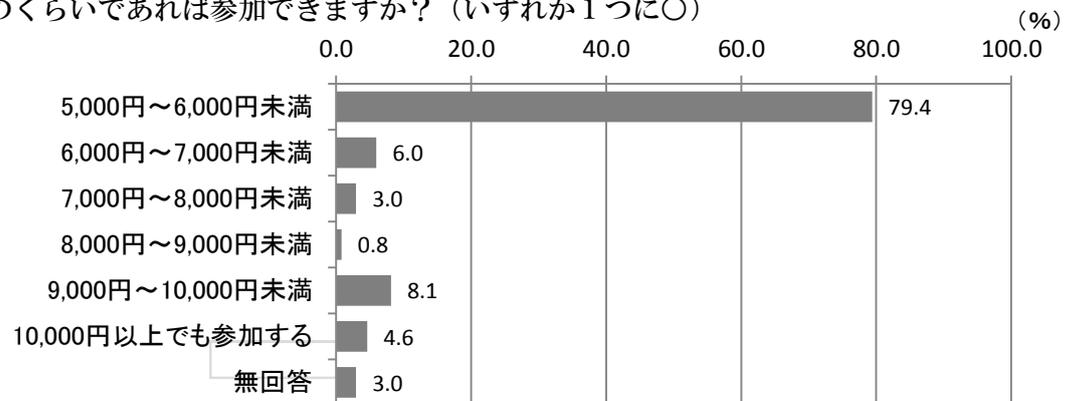


「はい」または「条件があれば」とお答えの方のみにおうかがいします。

問19-① 主にどのような活動に参加してみたいですか？（あてはまるもの2つまでに○）



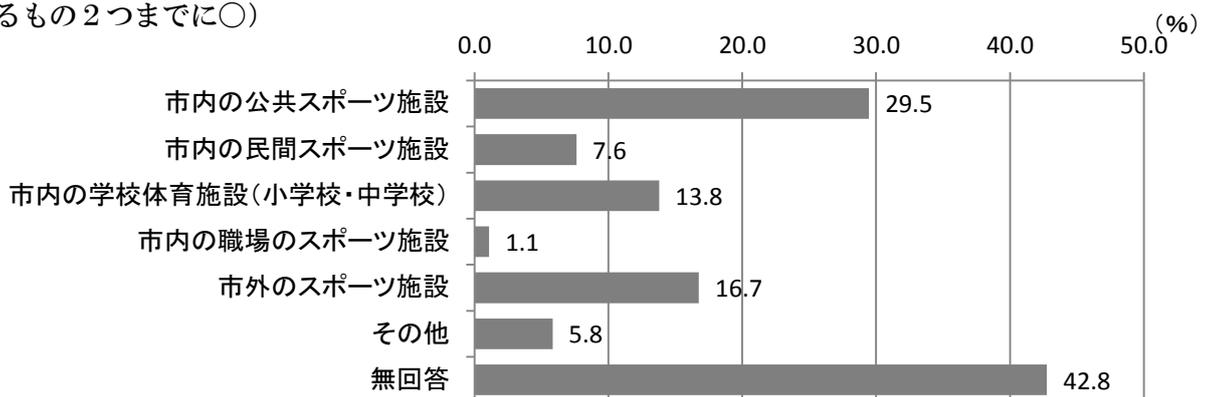
問19-② 年会費はどのくらいであれば参加できますか？（いずれか1つに○）



## I. スポーツ施設についておうかがいします

問20 あなたがよく利用するスポーツ施設は、次のうちどれですか？

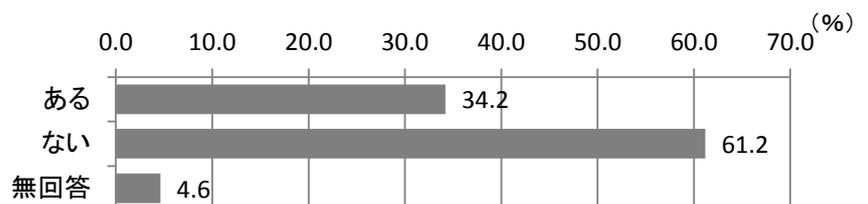
（あてはまるもの2つまでに○）



問21 あなたはこの1年間に安曇野市の

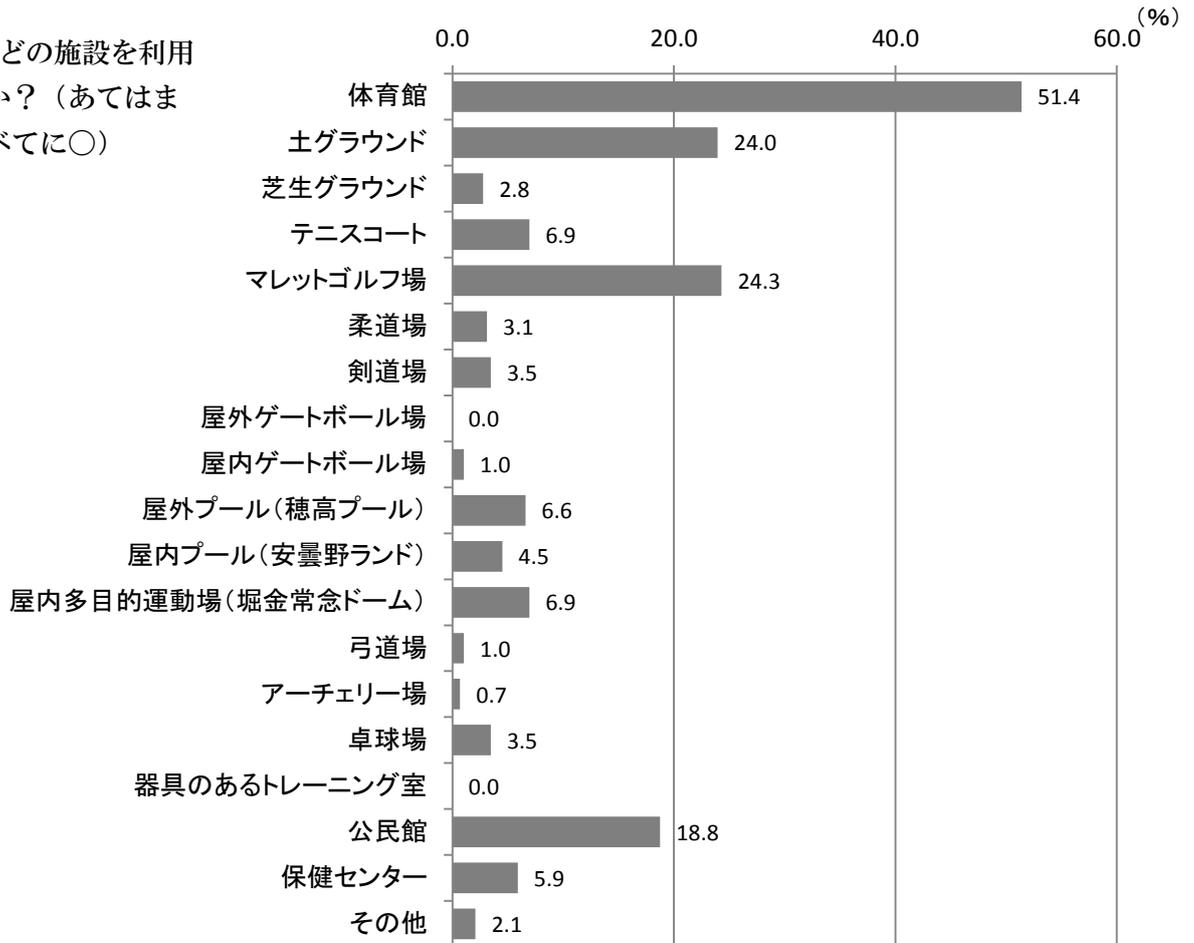
公共スポーツ施設（学校の体育施設を含む）を利用したことがありますか？

（いずれか1つに○）

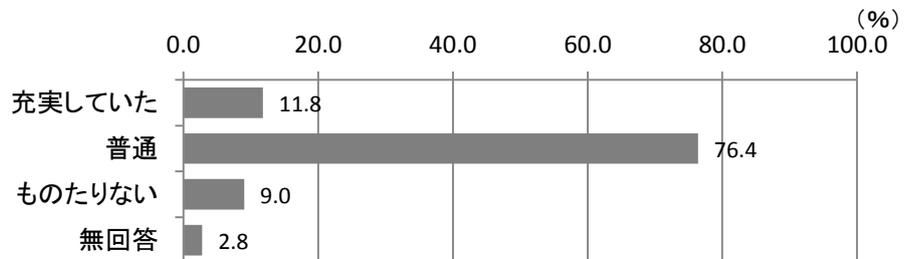


「ある」とお答えの方のみにおうかがいします。

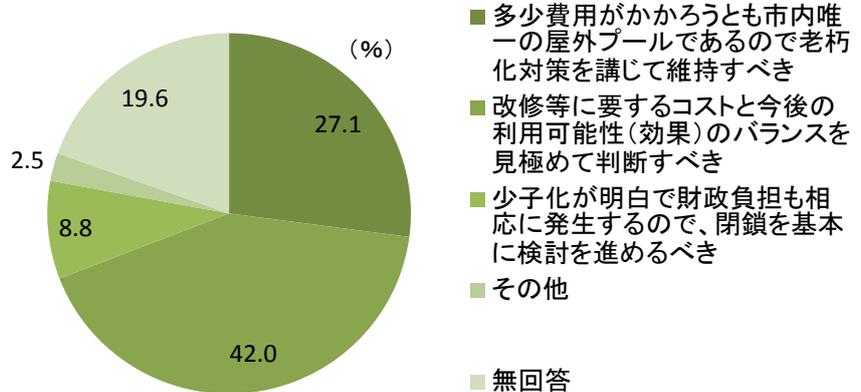
問21-① どの施設を利用  
 しましたか？（あてはま  
 るものすべてに○）



問21-② 利用した施設の設備についてどう思われますか？（いずれか1つに○）

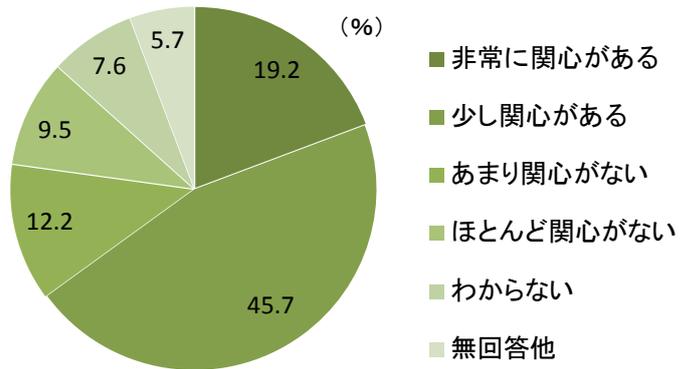


問22 穂高プールは、平成元年6月の開設以来、今年で29年目を迎えます。老朽化も進んでいる状況ですが、今後の施設の開場について、どう思われますか？（いずれか1つに○）

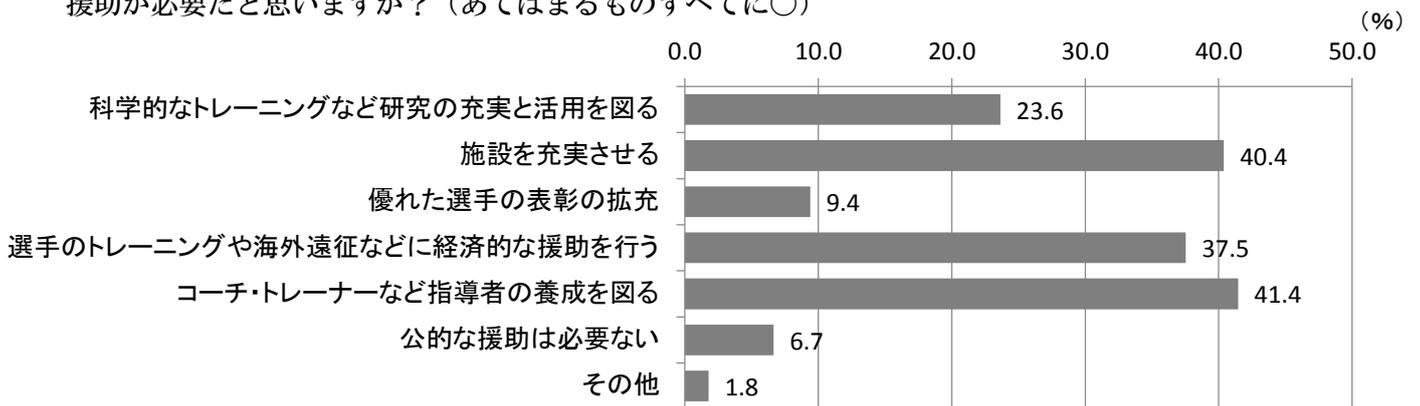


## J. 競技力向上のとりくみについておうかがいします

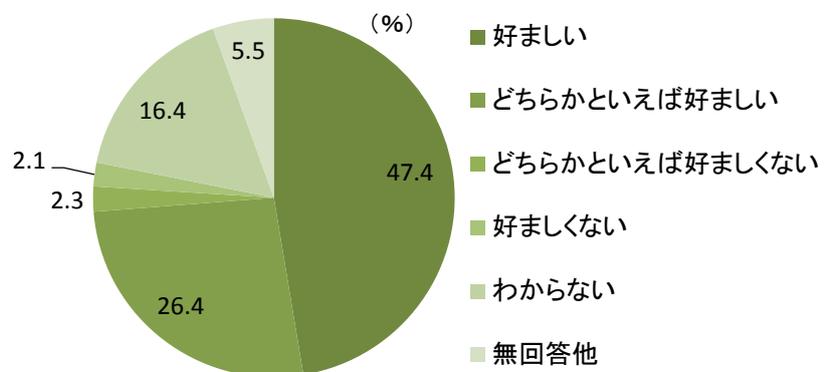
問23 あなたは安曇野市内在住の選手が地域や国内外での競技大会等で活躍することについてどのくらい関心を持っていますか？（いずれか1つに○）



問24 あなたは、安曇野市の選手が地域や国内外での競技大会等で活躍するためにはどのような公的援助が必要だと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

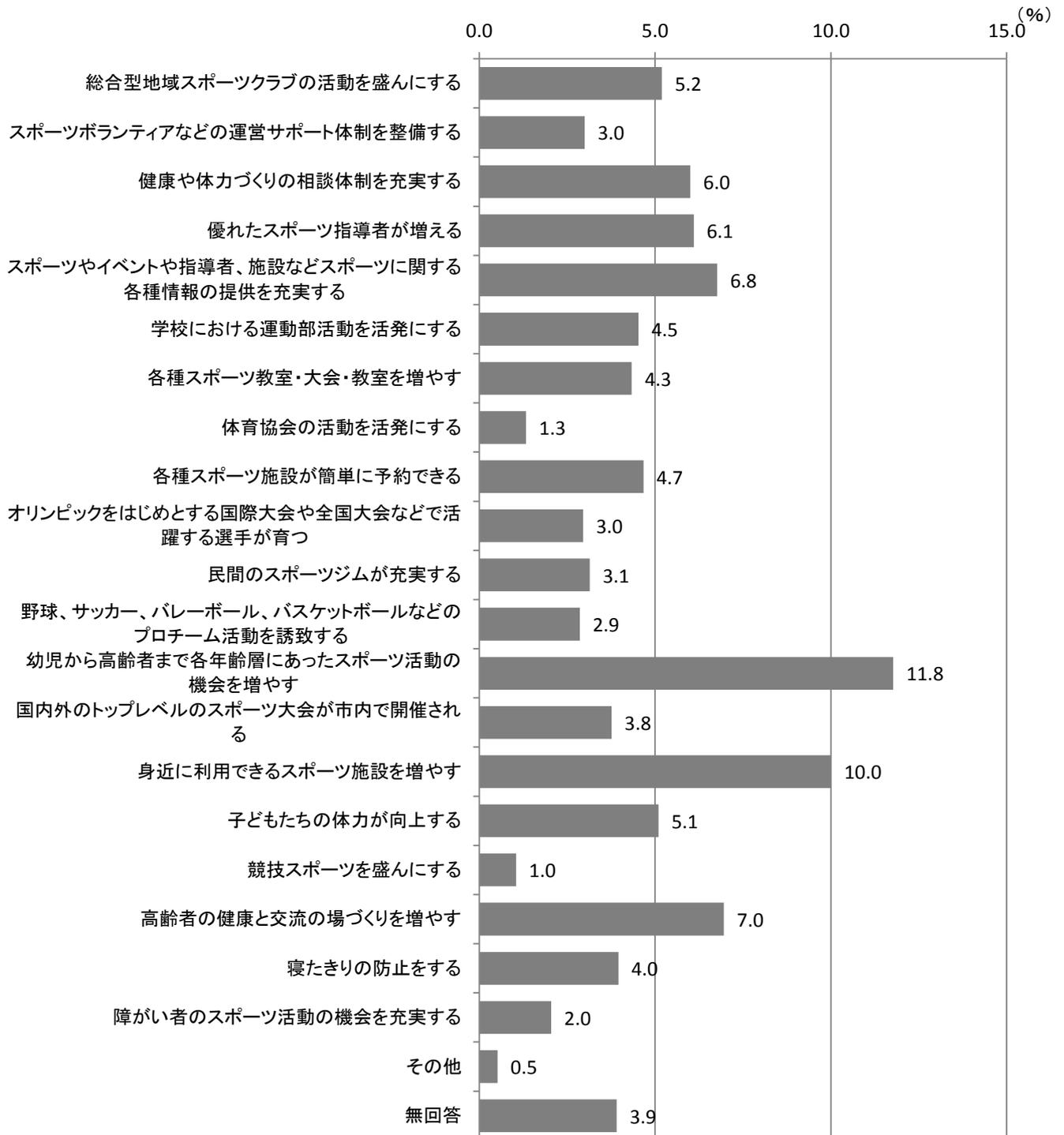


問25 あなたは、安曇野市の施設が中信地域や長野県単位などの規模の大きな競技大会やセミプロなどのレベルの高い試合の会場等として利用されることについて、どのように思いますか？（いずれか1つに○）



## K. スポーツ推進全般についておうかがいします

問26 安曇野市のスポーツ推進を図るためにあなたはどのようなことが必要だと思いますか？  
 (あてはまるもの3つまでに○)



## 記述回答

本調査で記述回答欄を設けた問について、回答数および主な回答を整理します。

### (1) 子どものスポーツ環境、体力づくりに関してお気づきの点や苦労点【問11】

回答数は43件で、多く寄せられた主な回答は、以下のとおりです。

- ・送迎など保護者の関わり、負担が大きい点への指摘：11件
- ・指導者に対する不満指摘（人数の不足や適任者でないことなど）：6件
- ・施設に関する意見指摘（施設が少ない、施設の増設・リニューアルの要望など）：5件

その他、クラブやサークルなどに入らないとスポーツをする機会が少ないこと、昔のように自由にのびのびと遊ばせられないこと（学校校庭が使えない、不審者等への不安）、お金がかかりすぎることなどについても指摘されています。

### (2) 安曇野市公共スポーツ施設の設備が「もの足りない」具体的内容【問21-③】

回答数は27件で、主な意見では、附属施設として、冷暖房設備、更衣室やシャワー設備などの不足、備品のメンテナンスや不足などが指摘されています。その他、一流のプレーが観られる体育館や運動場等の大規模施設設置への要望も寄せられています。

### (3) お気づきの点等自由意見【問27】

回答数は160件で、時間的にも距離的にも金銭的にも利用しやすいスポーツ施設や教室に対する要望や、スポーツに関する情報発信の充実・強化、一般市民向けに誰もが気兼ねなく参加できる身近なスポーツ活動の機会を求める意見など、個別の意見も含め様々な意見や指摘要望が寄せられました。これらの意見の一部を年齢別に掲載・紹介します。

○もっと身近にスポーツのできる施設をつくって欲しいです。部活でダンスをやっているのですが、学校に鏡がある練習施設がありません。鏡のあるヨガルームやダンスルームを建ててほしい。

[女性/16～19歳/三郷]

○仕事が遅くまであるので、そのあと（平日24時ごろまで）にいけるスポーツジムなどが近くあったらいいと感じます。結婚して1年、主人と一緒にいける、体を動かせる機会が欲しいです。

[女性/20歳代/豊科]

○安曇野市は移住者も多いので、情報がきちんといきわたるシステムを強化することが大切と思う。また、高齢者も多いので未病を努めることが大切。スポーツで未病の活動ができるといいですね。ウォーキングロードもたくさんあるので、コース案内など充実させてほしい。

[女性/20歳代/三郷]

○子どもや大人のスポーツ団体、クラブ等の情報が全く入らない。地域にどのような活動をしているところがあるのかも、わかりません。新しい体育施設をつくるとかよりも、情報をしっかりと発信していただきたい。情報を発信しているつもりでは、何もしていないのと同じだと思います。

[女性/30歳代/明科]

○親子もしくは老人と孫で、気楽に運動に親しめる場が多くあると良いと思います。予約が簡単、安曇野市になくても近隣の施設とタイアップして無料券を配るなど（スキー場、あづみの公園）。子どもたちの体力アップ、能力アップを学校に任せるのではなく、地域のスポーツクラブが充実し子どもを育てるようになると、子どもも地元で育ち、地元から強くなっていけると思う。大きな土地（ワシントン靴店工場やプール周辺など）に、総合的に施設をまとめてつくるなどして近隣の地域の人を呼び込めるようにすると、財政も安定するのではないかと思う。

[男性/30歳代/穂高]

○高齢化が進んでいくので誰でも気軽に参加できるイベントを多く開催し、それを通じてお年寄りたちが孤立しないように、横のつながりを持てるようなイベントをもっとつくって欲しい。団塊世代が参加しやすいイベントやボランティア関連のことも、スポーツに限らずもっと企画し、市全体が若い世代と繋がっていけるようにしたらいいと思う。

[女性/30歳代/三郷]

○気軽に簡単に参加できれば普及すると思います。

[男性/40歳代/豊科]

○小学生ぐらいまでの子どもたちに対し、運動能力の適正をみれる機会をつくり、早い段階で能力を引き出してあげることができたらよいと思います。高齢者の健康づくりのため、冬場でも使用可能なマレットゴルフ場が市内にあればよいと思います。バッティングセンターが市内にあれば、利用頻度は多いと思います。

[女性/40歳代/三郷]

○体力づくり、スポーツというと競技を連想しがちですが、自然豊かな安曇野ならではの、子どもも大人も高齢者も楽しみながら体力向上できるものがあればいいなと思います。

[女性/40歳代/明科]

○私くらいの年齢ですと会社と家事に時間を取られてしまい、長時間や長い年月を必要とする運動はまず無理。身近で手軽にできることで時間に縛られない、何かあればはじめやすいと思います。

[女性/40歳代/豊科]

○誰でも無料で使用できるジムがあったらいいと思う。

[男性/40歳代/堀金]

○地方では習えるスポーツの種類が少ないので、短期間で子どもたちが体験できる色々なスポーツ教室があったら良いと思います。そうすれば自分に合うスポーツに出会うことができる。例えばシンクロ10回コース、体操10回コース、スケート10回コース、新体操10回コースなど色々あったら全部習う子も出てくるかもしれません。そして良い指導者に来てもらうことが大事だと思う。

[女性/50歳代/三郷]

○今ある施設を利用し、低料金で多くの人が活用でき、健康寿命を延ばし、寝たきり防止につながることであればと思います。

[女性/50歳代/穂高]

○体育館だけの施設ではなく、観客席や休憩所など、冬でも暖かく過せるような機能が充実した施設がいいです。

[女性/50歳代/豊科]

○広い安曇野市ですので一つの場所に集中するのではなく、すみからすみまで使って広い地域の皆さんに、気軽に参加できるような企画を計画し、情報発信して欲しいと思います。

[女性/50歳代/三郷]

- スポーツ施設の建設を行う際は、市民が使用しやすい場所、公共交通機関の便の良いところに建設していただきたい。市民が気軽に行ける施設でなければ、建設する価値がないと思います。  
[男性/60歳代/穂高]
- スポーツ活動の情報が各家庭にいきわたっているようには思えない。もっと仕組みを作り、参加できるようなキッカケ、動機付けが必要ではないかと思えます。世代を超えた交流の場として、スポーツを市民にアピールできる仕組みがあればと思います。  
[男性/60歳代/豊科]
- 自身が運動が苦手なので考えられるのは体力づくりのための体操教室です。ヨガ、太極拳でもいいと思います。ハードな運動は年配者には無理。仕方がないことですが、スポーツ以外ですが既にやっていることがあり、体力づくりの教室のお知らせを見てよいものがあったとしても日程があわずあきらめることが多いです。  
[女性/60歳代/穂高]
- 安曇野市といっても広範囲に及ぶので、市全体というのは色々な規制や無理が生じてくると思います。市民の中にはスポーツが得意だったり、参加意欲がある方も大勢いらっしゃると思いますが、全体的にみても子どもたちの外遊びの様子が見られないのは残念なことだと思います。行政ばかりの問題ではないでしょうが、学校なり父兄なりの問題意識の改革も必要だと思います。お金をかけなくてもできる遊びはいっぱいあるはずですよ。  
[女性/60歳代/明科]
- 市内の数多くの場所で、誰でも行かれ、気軽にできるスポーツ、運動の教室を希望します。先着何名とされると、私たちは遠慮してしまいます。  
[女性/70歳代/三郷]
- 市のスポーツ施設はそこそこある。それぞれの施設の情報もある。ぜひこのプログラムに参加したいという意欲が全く湧かないのはなぜでしょうか。民間の施設が少ないこともあるのでしょうか。私は3年前当地に移住してきたのですが、市が更に積極的に集中して情報を流して、活用されるよう促されたいかがでしょうか。期待しています。  
[男性/70歳代/豊科]
- ①体力づくりは他人まかせでなく、自ら率先すること。  
②おこなわないと「おいていかれる」という危機感を持たせる施策を考えて欲しい。  
[男性/70歳代/堀金]
- 公民館や体育館を、老人が気軽に筋力トレーニングができる場所にして欲しい。足が不自由な方の訓練や手足を動かす等、病院やデイサービスに行かなくても気軽に集まれる場所が欲しい。高齢者の体力作り教室が公民館施設等を使うのに、使用料を取るのをおかしい。  
[女性/70歳代/三郷]
- 子どものころから体力づくりを推進して丈夫な体を作り、その人に合った運動をやっていくことは何よりも大切だと思います。私はいま83歳ですが、子どもの時小学校への行き帰りで6km歩いてきたため、いまも足は丈夫ですし健康です。10年以上病気もしません。みんなが元気でいて、その上に若いときからスポーツをとしたいと思います。  
[女性/80歳以上/豊科]
- 予算的には難しいことはわかるが、将来的には学生から一般まで、レベルの高いスポーツ大会が行われていて、その大会が観戦できたり応援できたりする場、あるいは招致できるような施設も一つくらいは欲しい。  
[男性/80歳以上/豊科]





安曇野市

---

## 第2次安曇野市スポーツ推進計画

平成30(2018)年3月

発行 安曇野市

編集 安曇野市教育委員会 教育部生涯学習課

〒399-8281 長野県安曇野市豊科 6000 番地

TEL : 0263-71-2000(代) FAX : 0263-71-5000

---